OTOMO KATSUHIRO

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

KODANSHA

OTOMO KATSUHIRO

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

KODANSHA

AKIRA
CLUB

OTOMO KATSUHIRO

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

AKIRA CLUB

OTOMO KATSUHIRO

『ＡＫＩＲＡ』は1982年12月にヤングマガジンで連載を開始し、1993年３月の単行本６巻発売で幕を閉じた。本書はその10余年の全記録を目指したものであり、以下の４部で構成されている。

AKIRA ILLUSTRATIONS

このセクションには、単行本カバーイラストとヤングマガジン表紙イラストを中心に、カラー画及びそのデッサン類を集めた。著者の作画意図として短いコメントを付してある。

TITLE-PAGE COLLECTION

『ＡＫＩＲＡ』単行本ではストーリーの流れを優先したため、雑誌連載時の扉絵は省略されている。 このセクションにはその120回分の扉絵を完全収録した。その横に付したのはヤングマガジンの目次に入れられた当時の著者近況である。また、単行本各巻のまとまりごとに、連載時のタイトルロゴとリードを再現したコーナーを置いた。それと隣接して収められた見開きのカラーイラストは、スティーブ・オリフ氏が単行本の表紙絵を本書のために新たにカラーリングしたものである。

MEMORIAL GALLERY

本書制作中「おもちゃ箱セクション」と呼ばれたここには、宣伝用ポスター、グッズ、各国版をはじめ、『ＡＫＩＲＡ』の周辺で作られたものをほぼ網羅した。

UNPUBLISHED WORKS

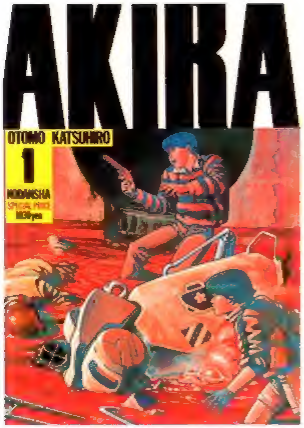
連載執筆中、あるいは単行本化の際に変更され、ＮＧとなった幻のカット集である。単行本収録カットを並べ掲載し、著者の解説をつけた。著者の作画姿勢、テクニックなども読みとっていただきたい。また、作中人物のモデルなどについてもここでふれている。

なお巻末には､年表と連載時の編集部アンケートに対する著者コメントがある｡『ＡＫＩＲＡ』というプロジェクトを支持していただいた多くの人々に､『ＡＫＩＲＡ』がいた時代を再確認していただければと思う。

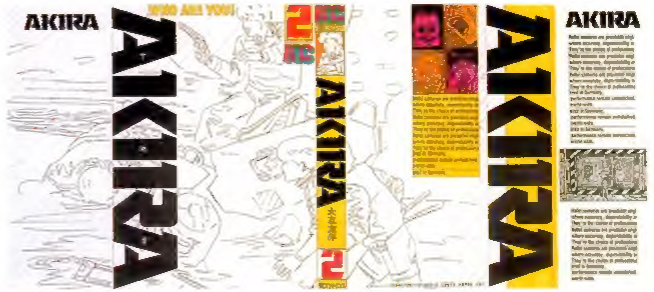
YOUNG magazine KODANSHA
Printed in Japan
First printing, 1995

「ＡＫＩＲＡ」新連載予告用イラスト。
ヤングマガジン '82年12月６日号に掲載。
266㎜×368㎜。
「連載前、キャラクターが未だ混沌としている時に描いたものです。主人公が少年ということだけは決めていましたからこれなら嘘にはならないだろうと思って描きました」

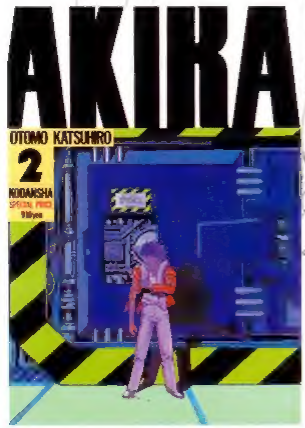
単行本1巻カバーイラスト。
364mm×514mm。
「ページ数と内容と絵、どれをとっても、アメコミ風の濃い世界というか、ボリュームのある単行本にしたかったんです。このイラストもボリュームを出すために、意識的に厚く塗っています。こんなに厚塗りしたのは生まれて初めてです」



単行本1巻。初版は'84年9月21日。B5版、黄色の小口、表紙はすべて英語表記など画期的造本でセンセーショナルな話題を呼んだ。「世界展開を考えて、英語や中国語を使ったわけではありません。新しいものを創りたいという意気込みはすごくありました」



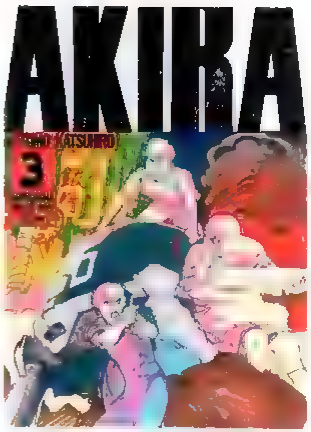
上の3点は単行本1巻カバーデザイン案。「デザインが決定するまでに、ずいぶん時間がかかりました。ボリュームも出したいし、無国籍の感じも出したい。試行錯誤の連続で、発売が遅れてしまいました」
下は単行本の見返し。「これは『冒険王』に連載していた福島鉄次さんの『砂漠の魔王』を意識しました。あのアメコミ風の色使いが大好きで、いつかは自分もしてみたいと思っていたのです」

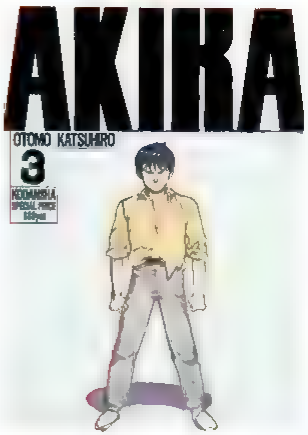


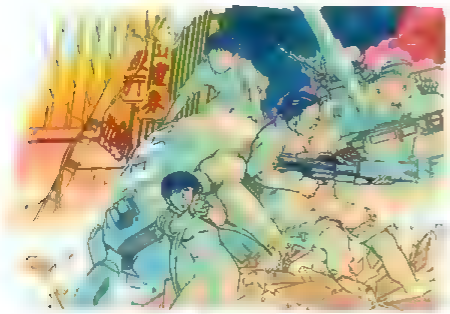
単行本2巻。初版は'85年9月4日。小口の色は浅葱。左はそのイラスト。514mm×364mm。「1巻がホットなイメージ。ならば2巻はクールでいこうと思いました。カバー裏はビデオ処理です。ビデオのカラーバランスを変えて何度も処理するわけで、講談社のビデオを使用不可能にしてしまいました」

単行本３巻カバーイラスト。
361mm×511mm。
「１巻はアメリカン、２巻はヨーロピアンをイメージしています。３巻はオリエンタルな雰囲気を出そうと思い、背景の看板や全体の色調などに工夫しています」

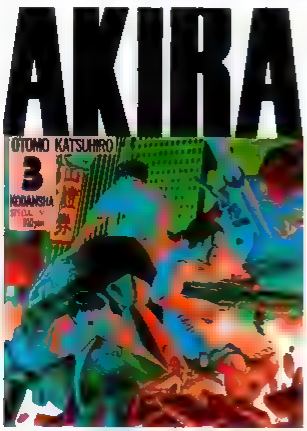
単行本第３巻の読者プレゼント用ポスター。
726mm×1022mm。



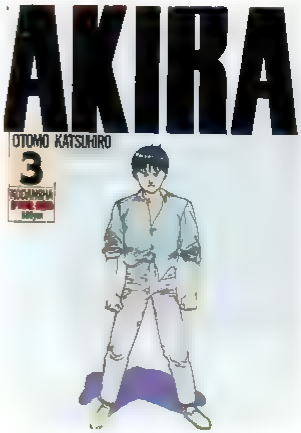




カバーイラストのマーカー画。
「着色原稿を描く前には、必ずマーカーで試し塗りをします。
全体のイメージをつかむためには、絶対に必要な作業です」

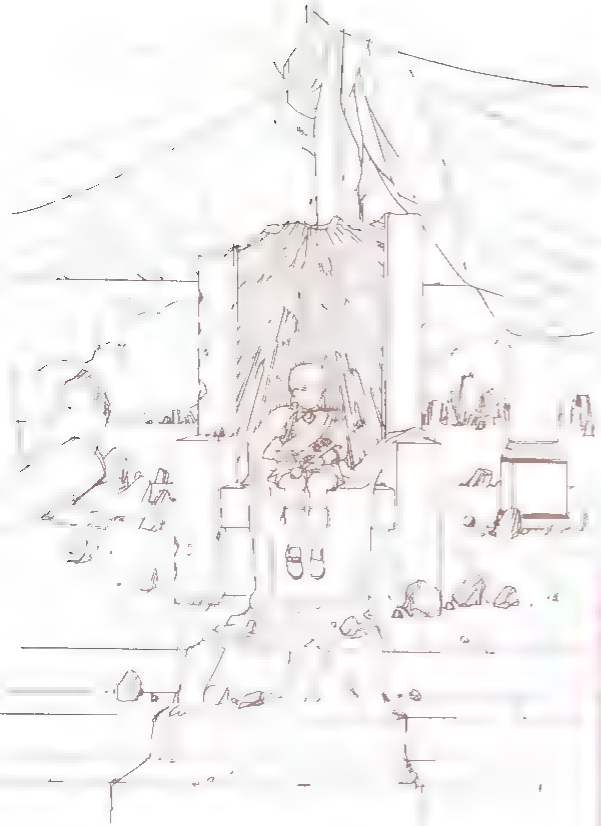


単行本３巻。
初版は 86年９月１日。
小口の色はオレンジ。

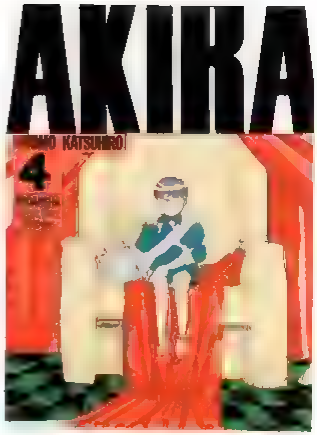


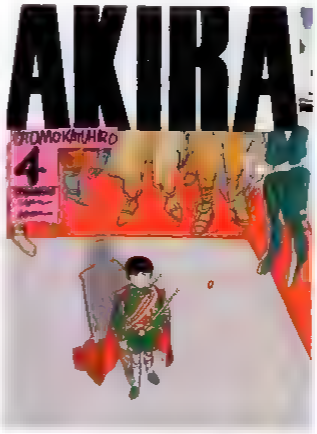
単行本３巻カバーデザイン案。
「１巻２巻と派手な色を使ってきたので、３巻はホワイトを基調としたシンプルなカバーがいいかなと思ったりもしました。でも結局後戻りはできないなと思い直したわけで、派手なオリエンタル的カバーになりました」

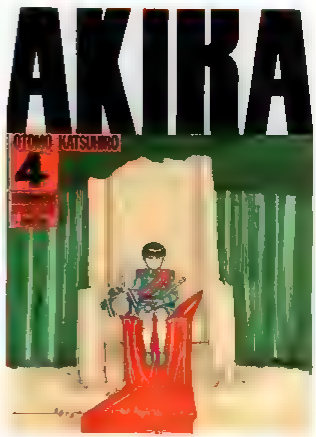
単行本4巻カバーイラスト
515mm×363mm。
「石段の部分の微妙なグレーが出るかどうか心配で特色のグレーを使いました」

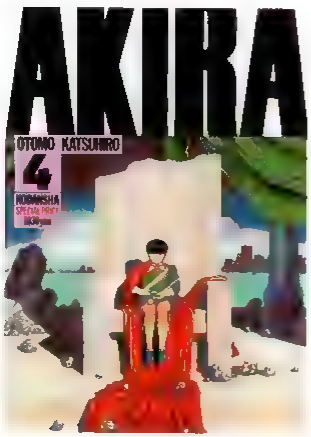


単行本４巻カバーイラスト下絵。

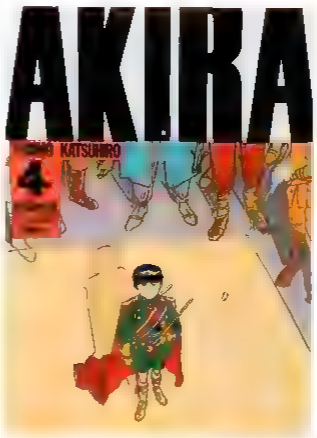


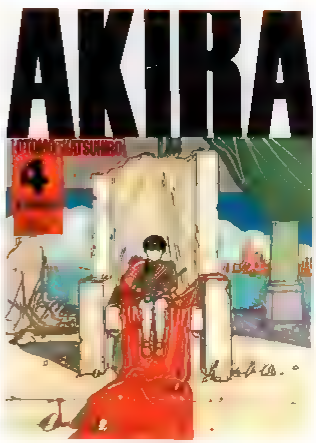






上は単行本４巻。
初版は '87年７月10日。
小口の色はパープル。
左は読者プレゼント用ポスターで
1022mm×726mm。





単行本４巻カバーデザイン案。
「単行本カバーは１巻から動→静→動と来てましたから、順番で４巻は静の絵だなと思っていました。で、座ってるアキラを描いたけど、どうも気に入らない。立たせても気に入らない。また座らせて今度はカーテンを開けたら、ぱっと世界が広がったんです」

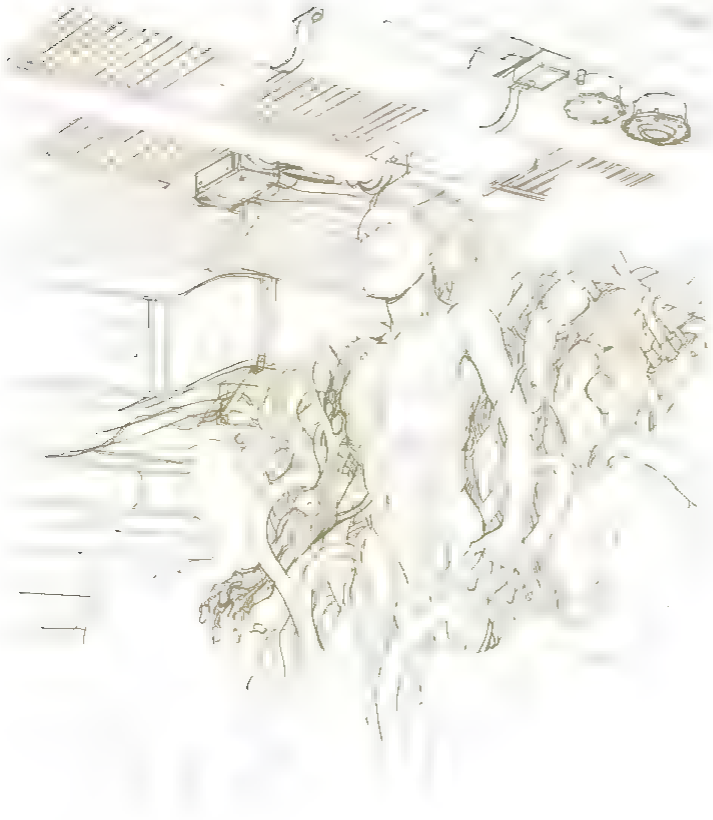
OTOMO KATSUHIRO

AKIRA

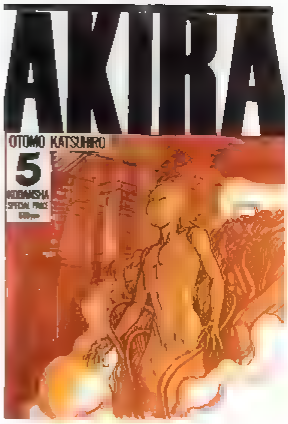
2020 a.d. ... supérieur secret d'Etat ... le drame de la force inconnue d AKIRA se déroule sur la scène de vastes gravats et se fixe dans le nouvelle dimension

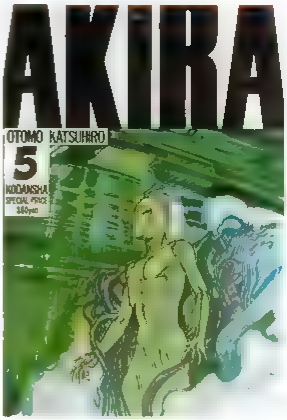
Le quatième volume de neo-OHTOMO action qui attire le regard meme au pays d outre-mer se construisant tout a fait nouveau monde d'image de B.D. japonais !

PART 4
SPECIAL PRICE
1000 yen
KODANSHA



単行本5巻カバーイラストの下絵。
「ここから色を塗っていくわけですが、単行本の仕事、つまりカラーの仕事は1年に1度程度で勤を取り戻すだけで大変でした。特に、これは背景にある光線がなかなかうまくいかなくて、苦労した記憶があります」





単行本5巻カバーイラストのマーカー画。
「2パターン塗ってみて、自分としてはオレンジの方が気に入っていたんですけど、周りのみんながグリーンの方がいいと言うもんですから」

上は単行本5巻。
90年12月11日初版発行。
左はそのイラストで
514mm×362mm。

単行本5巻カバーイラストのラフデッサン。「4巻までのカバーイラストは内容に連動してません。5巻からは、中に収録されるシーンからイメージして描くようになりました」

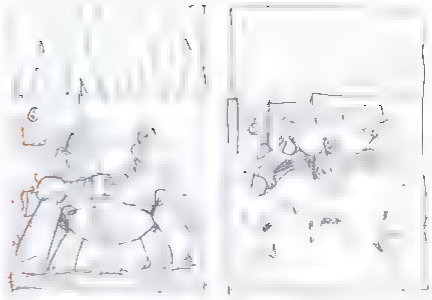
OTOMO KATSUHIRO

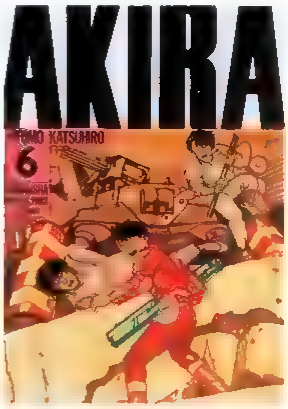
AKIRA

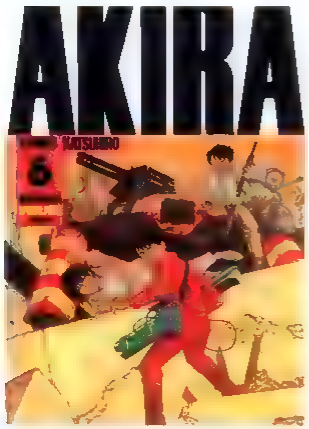
PART6

YOUNG

単行本6巻の読者プレゼント用
ポスター。1022mm×726mm。





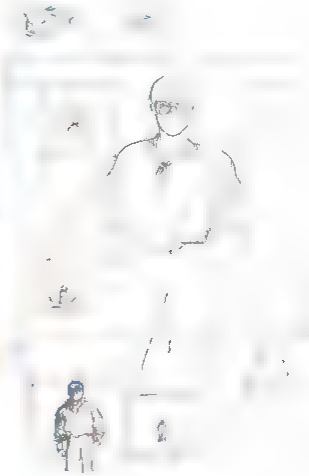


上は単行本6巻。
'93年3月23日初版発行。
小口の色は黄丹。
左はそのイラストで
514mm×362mm。

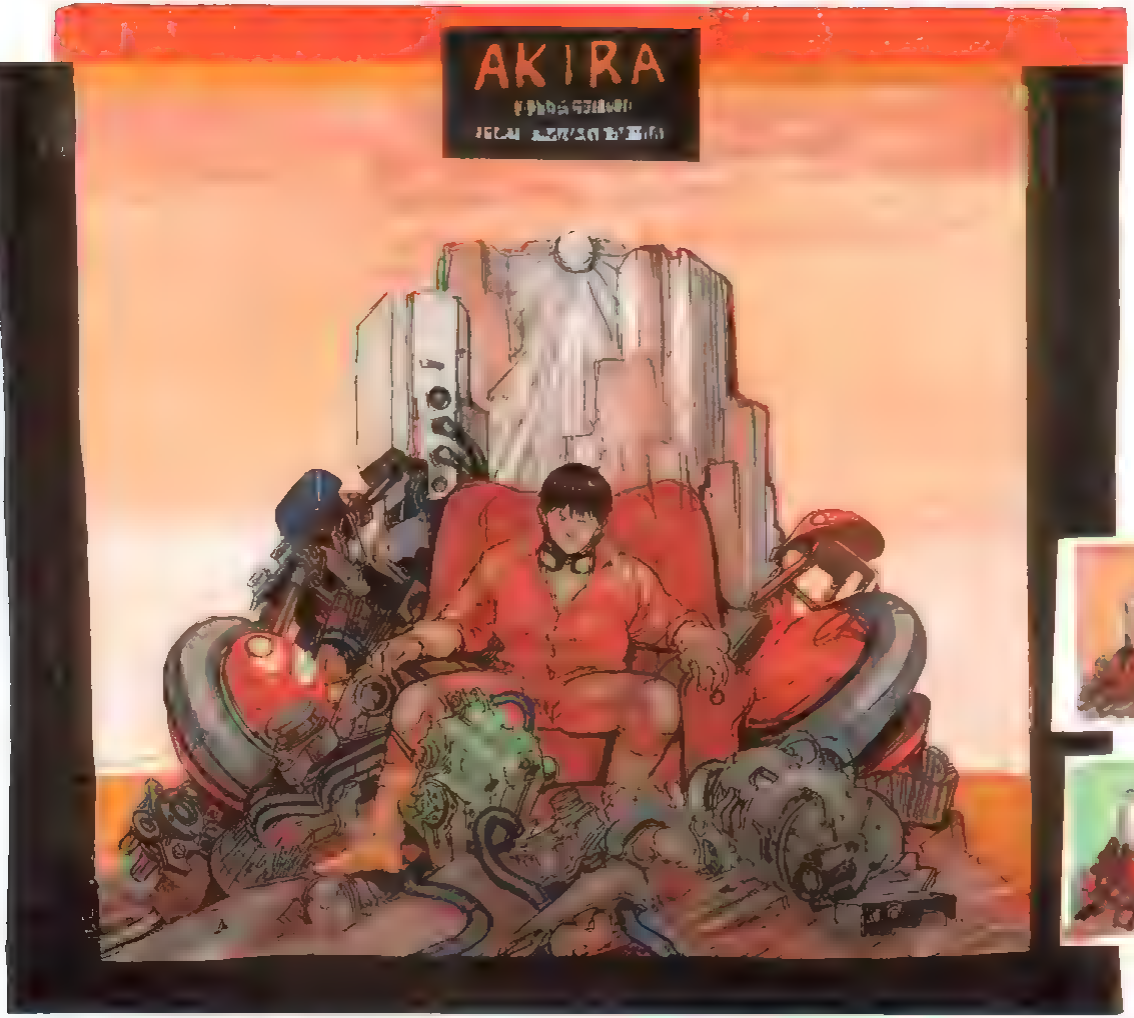
単行本6巻のカバーイラストのラフデッサン。
「ラストですからカッコよく決めたかったんです。そのせいかラフの量が一番多くなってしまいました。金田の視線を正面に向けたいと思い、そのための、わざとらしくない状況設定を考えるのに苦労しました」

上はアニメ ＡＫＩＲＡ レーザーディスク　88年12月15日発売
左はそのイラスト。513mm×459mm。
「レーザーディスクはレコード店で売られるということをかなり意識して描きました。アニメのジャケットはキャラクターをゴチャゴチャ描いたものが多いので、顔のアップで勝負しようと思ったわけです。

3枚組レーザーディスク
「スペシャルコレクションAKIRA」
パッケージイラストの
ラフデッサンとマーカー画。



「レーザーディスクも２枚目でしたから、何を描こうかなかなか決まらなかったですね。参考にファッション雑誌を見たりしていました。ここにあるラフなんか、どう見ても、男性ファッションモデルのポーズや描こなしですね。冷静に考えると、どうも、ＡＫＩＲＡらしくない。漫画家は描く絵に困ると、こういうことをやり始めるという見本です。今見ると、これはこれでおもしろいとは思いますが。」



スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ
パッケージイラストのマーカー画。
「結局こうなりました。これは完全に自分で考えた絵です。それにしても、カラー原稿は自分の思った通りの色になかなか印刷されませんね。印刷技術の限界なんでしょうか。それとも使用している画材のせいなんでしょうか。10年前に買ったリキテックスを未だに使っていますから、そのせいかもしれません」

「スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ
完成パッケージ。93年３月25日発売。
「本当は上のラフのようにＡＫＩＲＡの
ロゴが小さい方が好みなんですけど」

3枚組レーザーディスク
スペシャルコレクションAKIRAの
パッケージイラスト　514mm×458mm

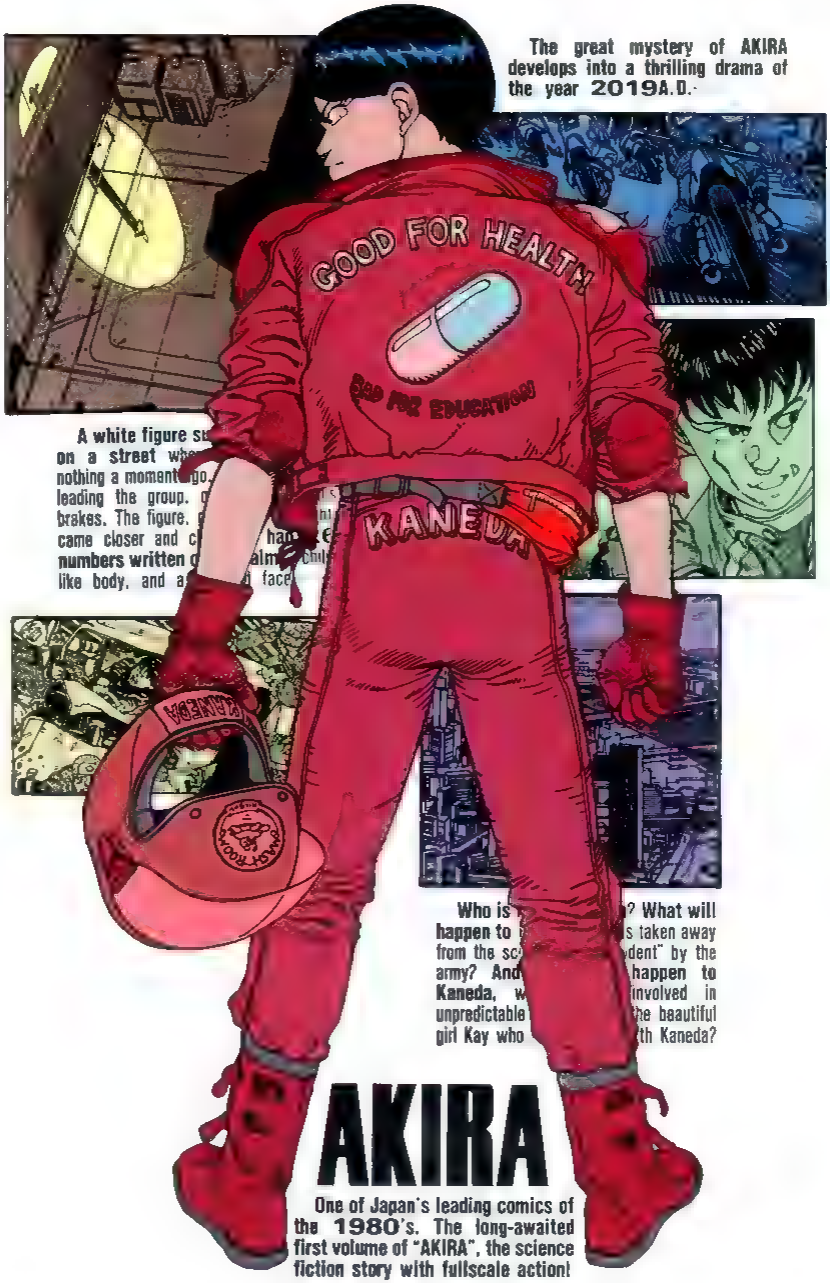
アニメKC　AK　RA　1巻カバーイラスト
363mm×249mm
「ここに描いたうちの何人かは、アニメ用に作った
キャラクターです　誰がそうだかわかりますか？」

アニメKC AK RA 2巻カバー イラスト。
363mm×265mm。
「アニメの美術の人がこんな色使いをしてたんです。
真似してみました。アニメ的世界観でしょうか」

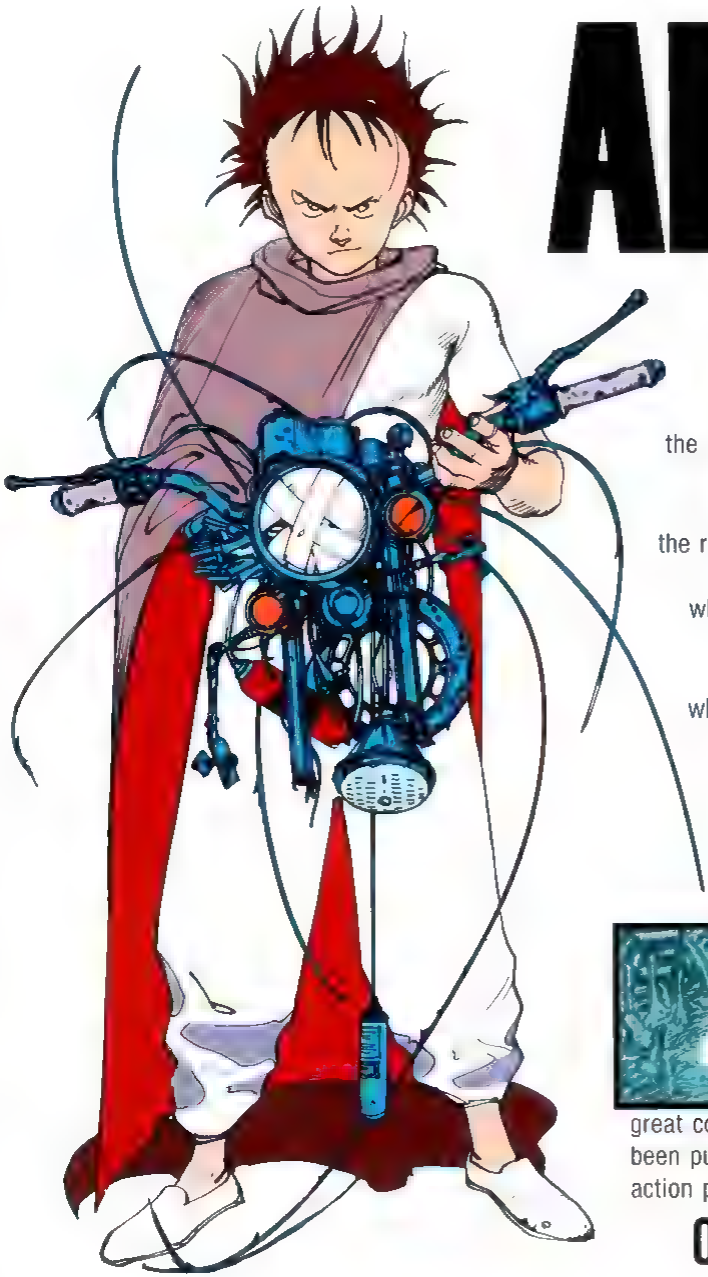
アニメＫＣ　ＡＫＩＲＡ　３巻カバーイラスト
384mm×259mm
「上の青と下の赤、分裂した鉄雄を表現したつもり
です。どちらの世界に行くか、悩んでいるわけです」

アニメKC　AK　RA　4巻カバーイラスト
363㎜×256㎜。
「アニメKCでは、小さくても目立つ絵を描きました　これなんて、いかにも表紙という感じですね」

アニメKC　AKIRA　5巻カバーイラスト
363mm×257mm
「アニメKCのラストです　とは言っても、実は、
この5巻分はほぼ同時に描いたのです」

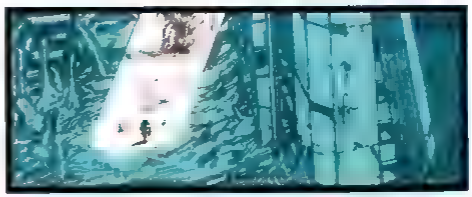


Tシャツ用イラスト。ヤングマガジン 86年７月21日号のプレゼントグッズ。
「文字配列などのデザインもやりました。結構気に入りまして、アニメのスタッフトレーナーにもなりました」



AKIRA

A.D. 2020. In the western region of the great expanse of wasteland known as **Neo-Tokyo**, the **Great Tokyo Empire** which defied the mysterious **AKIRA** together with the **DAIKAKU**, declared independence. What are the real intentions of **TETSUO** who commands the empire? Also, what is to become of **MIYAKO'S** army, destined to overthrow **TETSUO'S** empire? Finally, what kind of fate must **KAY** and **KANEDA** who is lost without a clue face. **AKIRA** has become a SF action comic of great controversy in our time. **AKIRA** has been published serially boasting over **1000** action packed pages.

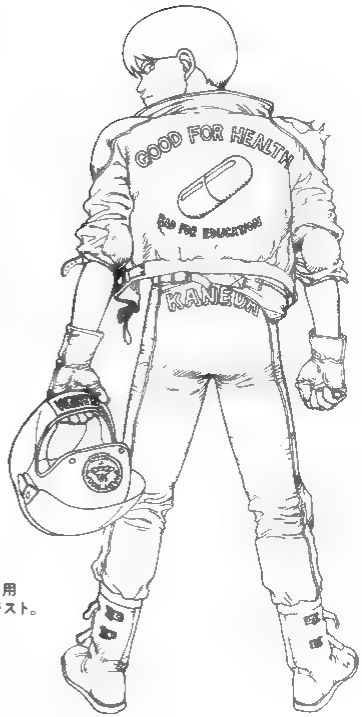


OTOMO KATSUHIRO

Tシャツ用イラスト。ヤングマガジン 85年7月1日号のプレゼントグッズ。
「鉄雄にグループを象徴するオブジェを持たせたかったのです。うまいことバイクのヘッド部分を思いつきました」

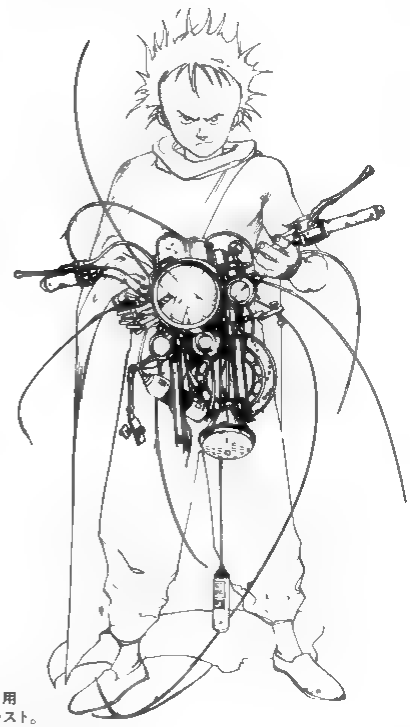
アニメビデオ「AKIRA」
購買者プレゼント用ポスター
の下絵。

読者プレゼント用
トレーナーのイラスト。



読者プレゼント用
Tシャツのイラスト。

読者プレゼント用Tシャツの
イラスト。388mm×267mm。
「「AKIRA」初のTシャツ。胸
のワッペンには、NHKの「YO
U」の絵が入っています。我なが
ら良く細かい」

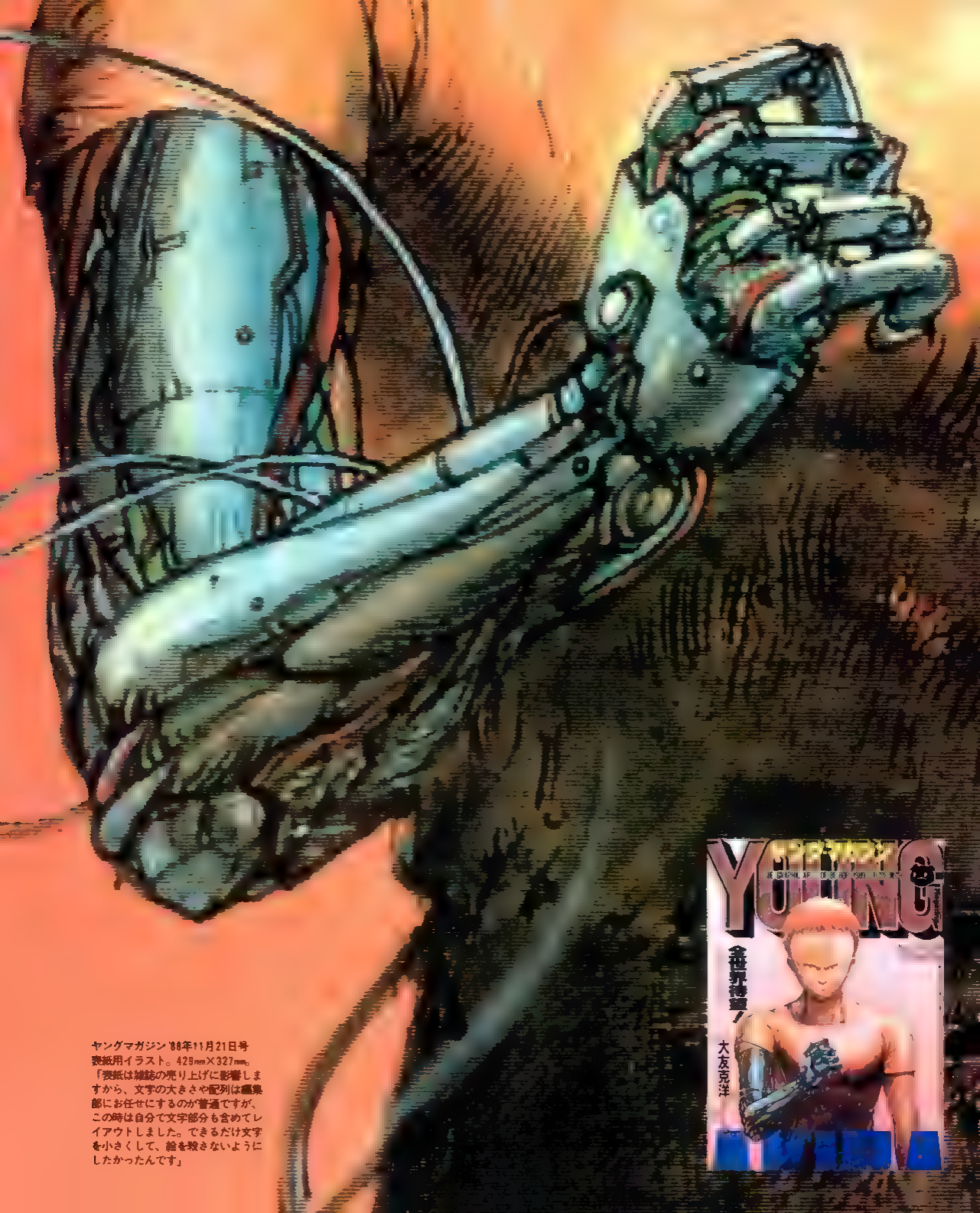


読者プレゼント用
Tシャツのイラスト。

ヤングマガジン'90年1月8日・14日合併号
表紙用イラストのペン画。267mm×388mm。
「前ページの金田バイクとは全然違いますね。
やっぱり設定をきちんと作っていなかったの
です。比較して楽しんでください」

左上のペン画に、色見本としてマーカーで彩色したもの。
「「ＡＫＩＲＡ」のアメリカ版はスティーブ・オリフが全ページをコンピューターでカラーリングしてくれました。それに対抗するというわけじゃありませんが、チントレップというコンピューター・カラーリング・システムが凸版印刷に導入されたので、ヤングマガジンの表紙用に着色してもらいました。それが日本で最初のチントレップ使用イラストでした」

アニメビデオ「ＡＫＩＲＡ
購買者プレゼント用ポスター
のイラスト。514mm×363mm。
「実は、金田のバイクは描く
たびに変わっています。設定
がないので自分で描いている
と、いつもいい加減なものに
なってしまいます。」



ヤングマガジン'88年11月21日号
表紙用イラスト。429mm×327mm。
「表紙は雑誌の売り上げに影響しますから、文字の大きさや配列は編集部にお任せにするのが普通ですが、この時は自分で文字部分も含めてレイアウトしました。できるだけ文字を小さくして、絵を殺さないようにしたかったんです」

ヤングマガジン'82年12月20日号
表紙用イラスト。362mm×513mm。
「キャラクターが固まっていない時点で描いたものです。いったいこの少年は誰なんでしょうか。色味が気に入らなかったので、描いた後で、グレーのカラートーンを貼っています。表紙にした時はさらにモザイク処理を施しました」

右はヤングマガジン'86年12月5日号
表紙用イラスト。388mm×266mm。
「イラストセクションの中でも、かなり異質な絵だと思います。ヨーロッパコミックの影響が出ているので、他とは趣が違うのです。しかも全部カラートーンで着色しています。ちなみに右端の真ん中にある絵はアーノルド・ベックリンの「死の島」といいます。小さくて見えないか」

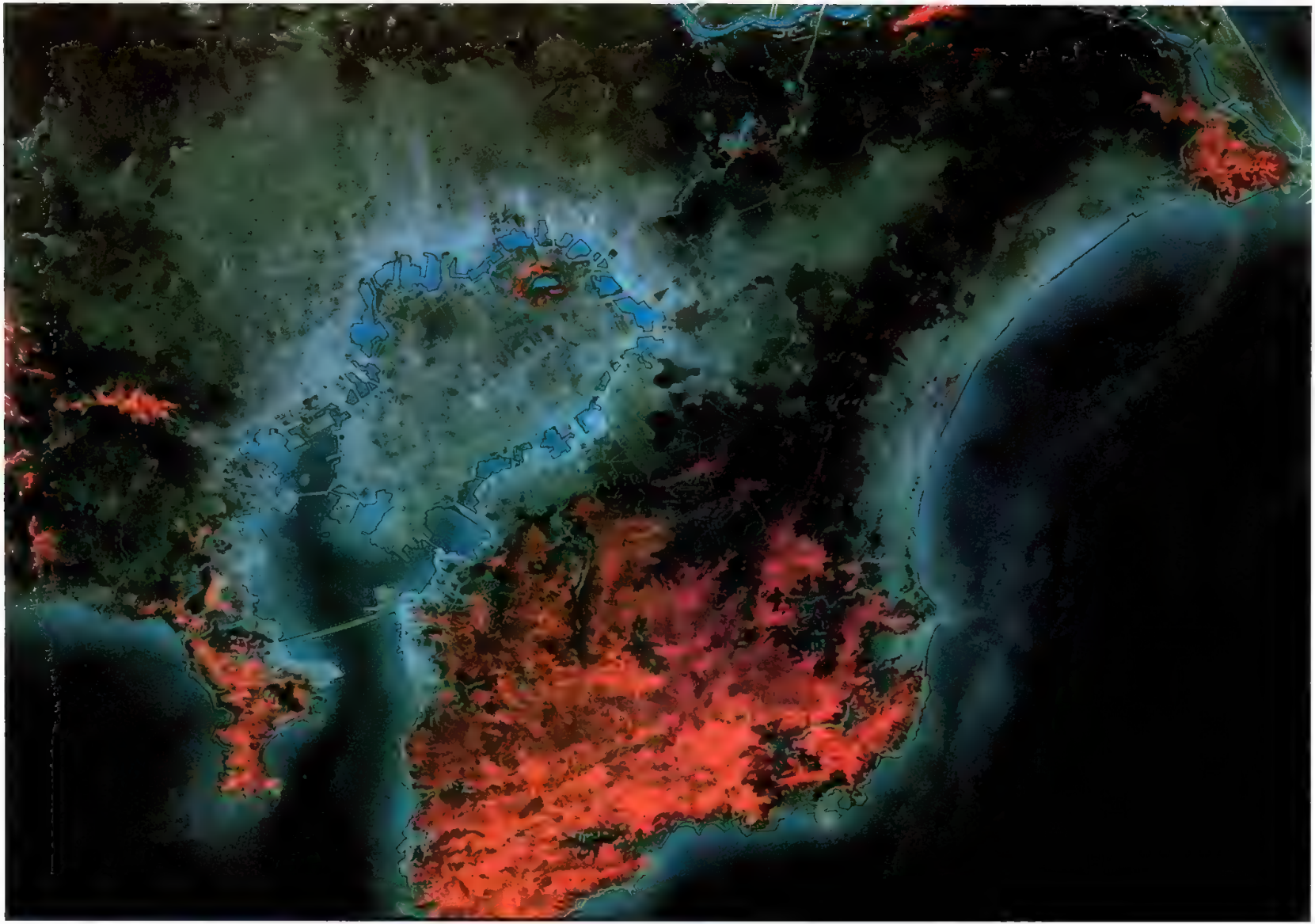
原画サイズ295mm×361mm

「アニメ　ＡＫＩＲＡ」の美術担当に、どんな世界観でやるんですか？って聞かれまして試しに一回描いたものです。その人に見せたら、こりゃあ描くの大変ですよって言われてしまいました。ちなみに、荻窪に春木屋というラーメン屋がありますが、あくまでもこれは架空の風景ですから」

episode1~episode120
TITLE-PAGE
COLLECTION

TITLE-PAGE
COLLECTION
Episode 1-18

AKIRA 1



Title page of **Episode 001**
Young Magazine (Dec 20,'82)

「12月20日に、東京紀伊國屋ホールで「しゆうを我等に」、か
一般初公開されます」

Title page of Episode 002
Young Magazine (Jan 3 '83)

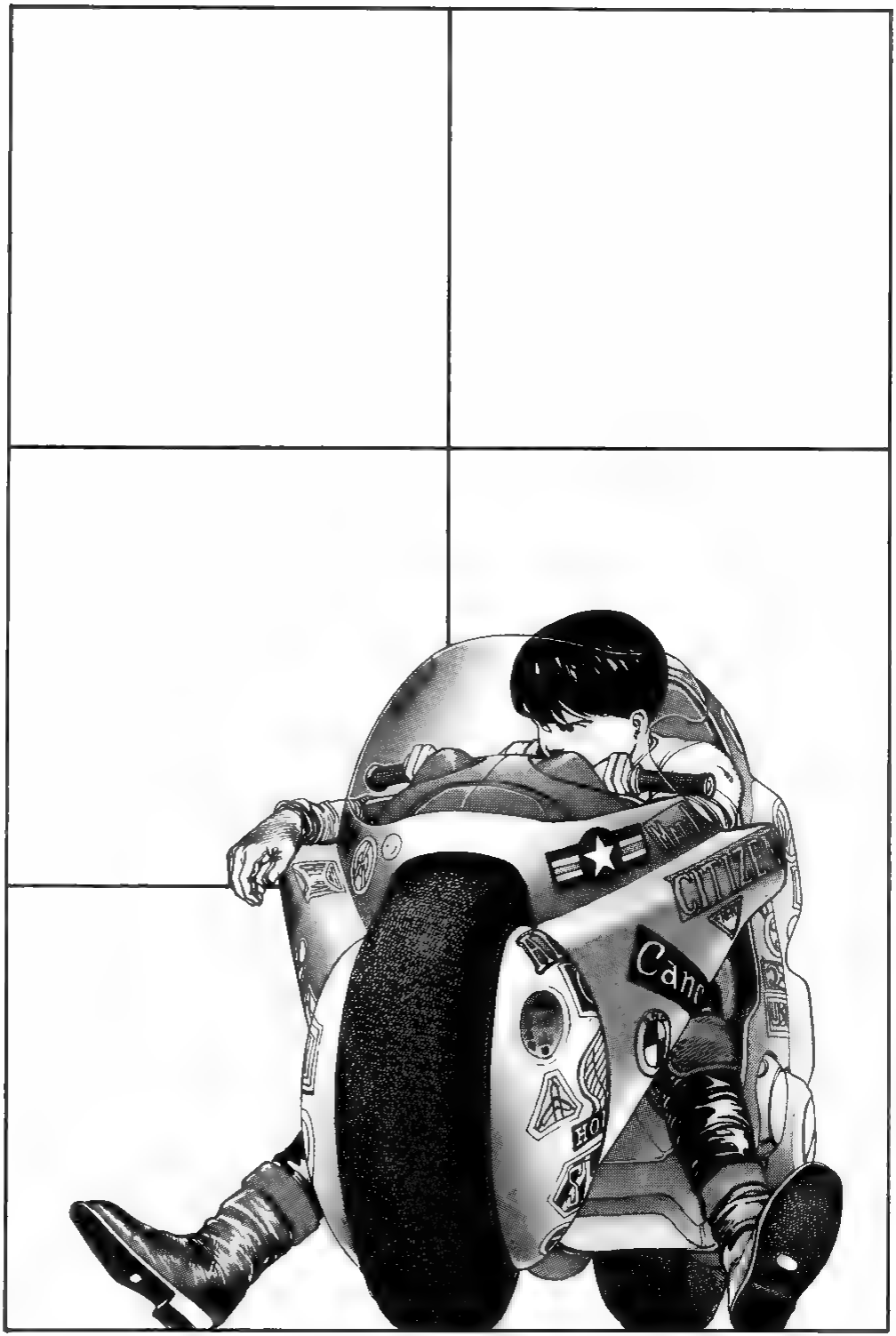
「UHFのアンテナをつけて
テレビ神奈川を観た。面白い
んでびっくりしています」

Title page of **Episode 004**
Young Magazine (Feb. 7, '83)

「今年の冬は大好きな毛ガニが高値で、なかなか手に入らず、頭をかかえています」

Title page of Episode 005
Young Magazine (Feb. 21, '83)

「虫歯が2、3本できて、ゆうつなのでそろそろ歯医者に行こうと思ってます」

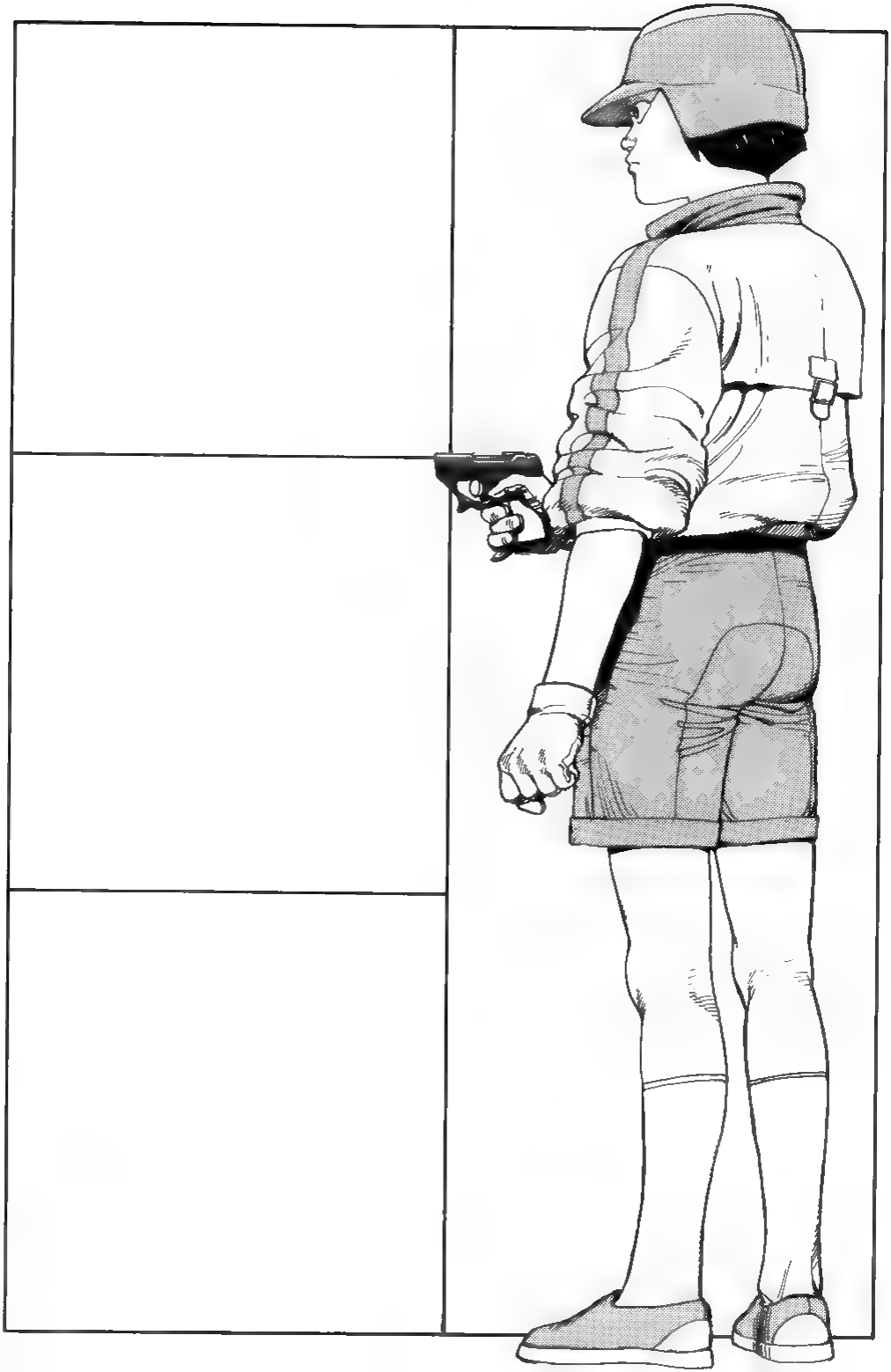


Title page of Episode 006
Young Magazine (Mar 7, '83)

「部屋の模様かえをして気分一新。新鮮な気持ちで「アキラ」に取り組んでます」

Title page of **Episode 007**
Young Magazine (Mar 21, '83)

「2月20日、友人の漫画家　高寺彰彦君の結婚式で伊豆の下田に行って来ました」



Title page of **Episode 008**
Young Magazine (Apr 4, '83)

「キャラクターデザインをした「幻魔大戦」上映中。よかったら、観てください」

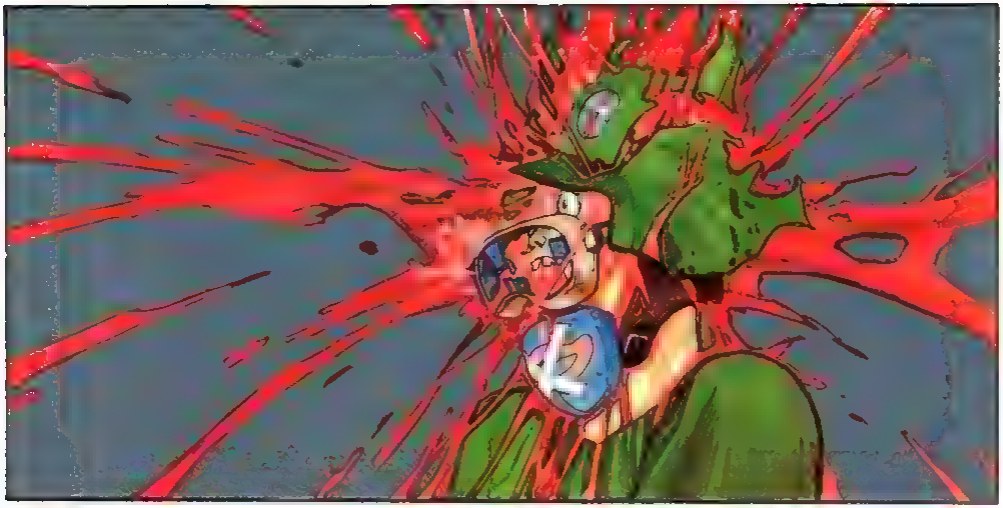
Title page of **Episode 009**
Young Magazine (Apr 18, '83)

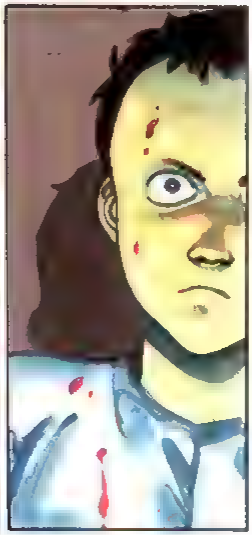
「ＮＨＫ教育テレビの「ＹＯＵ」のタイトルバックの絵が今度、新しくなります。」

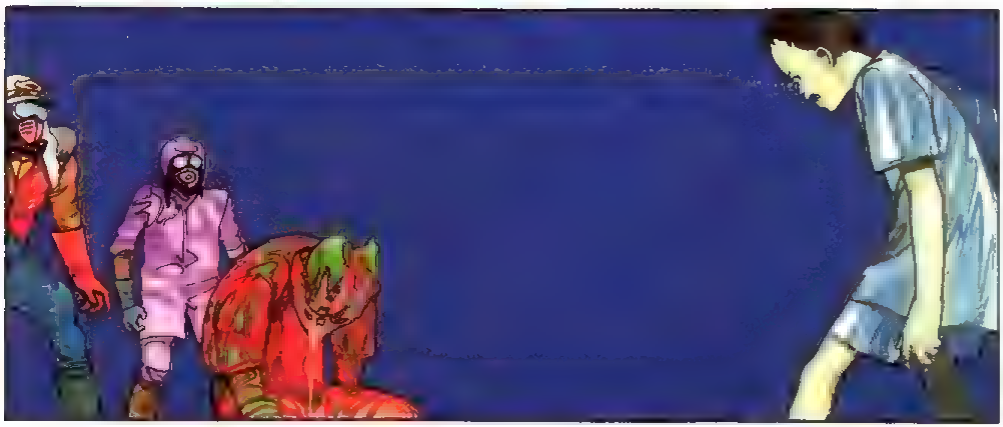
Title page of Episode 010
Young Magazine (May 2 '83)

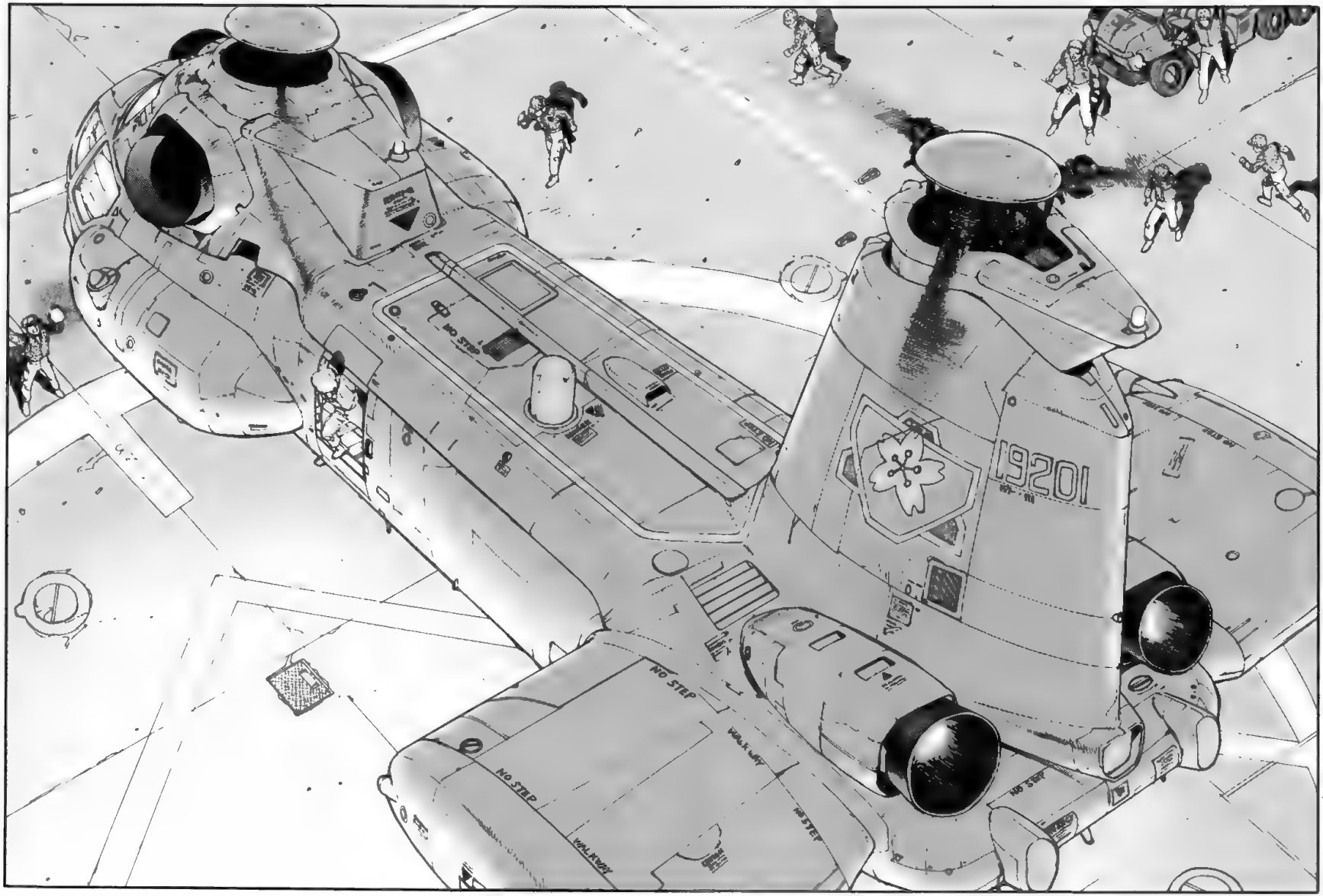
「暮あったかくて、ねむいです　　」

ドカッ







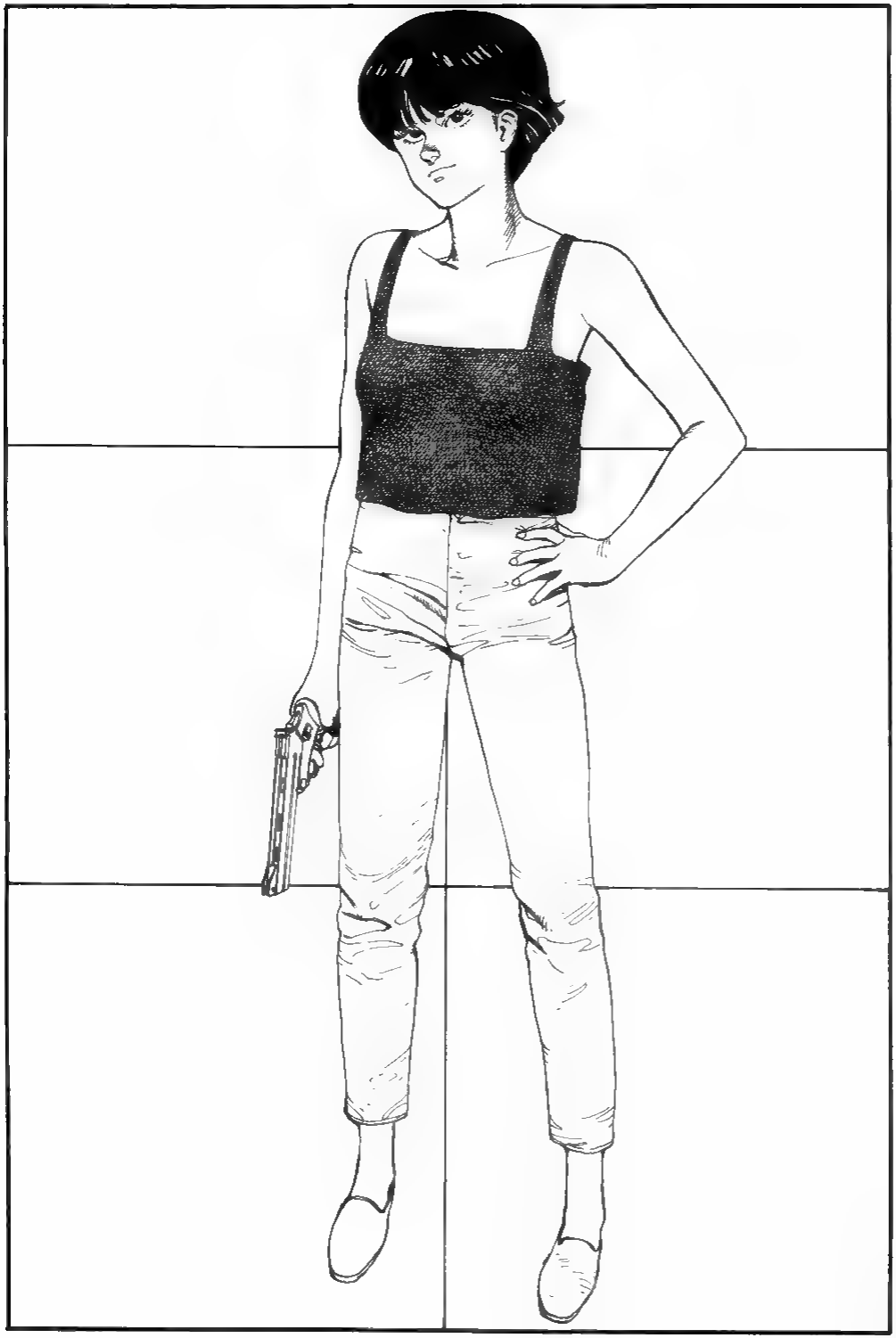


Title page of **Episode 011**
Young Magazine (May 16 '83)

「動作」監督した「しゆうを
教場にがら、18-5.22まで、
地獄の文基地下で公開され
ます。

Title page of **Episode 012**
Young Magazine (Jun. 6, '83)

「誕生日にもらったラジコンカーをついに完成させました」

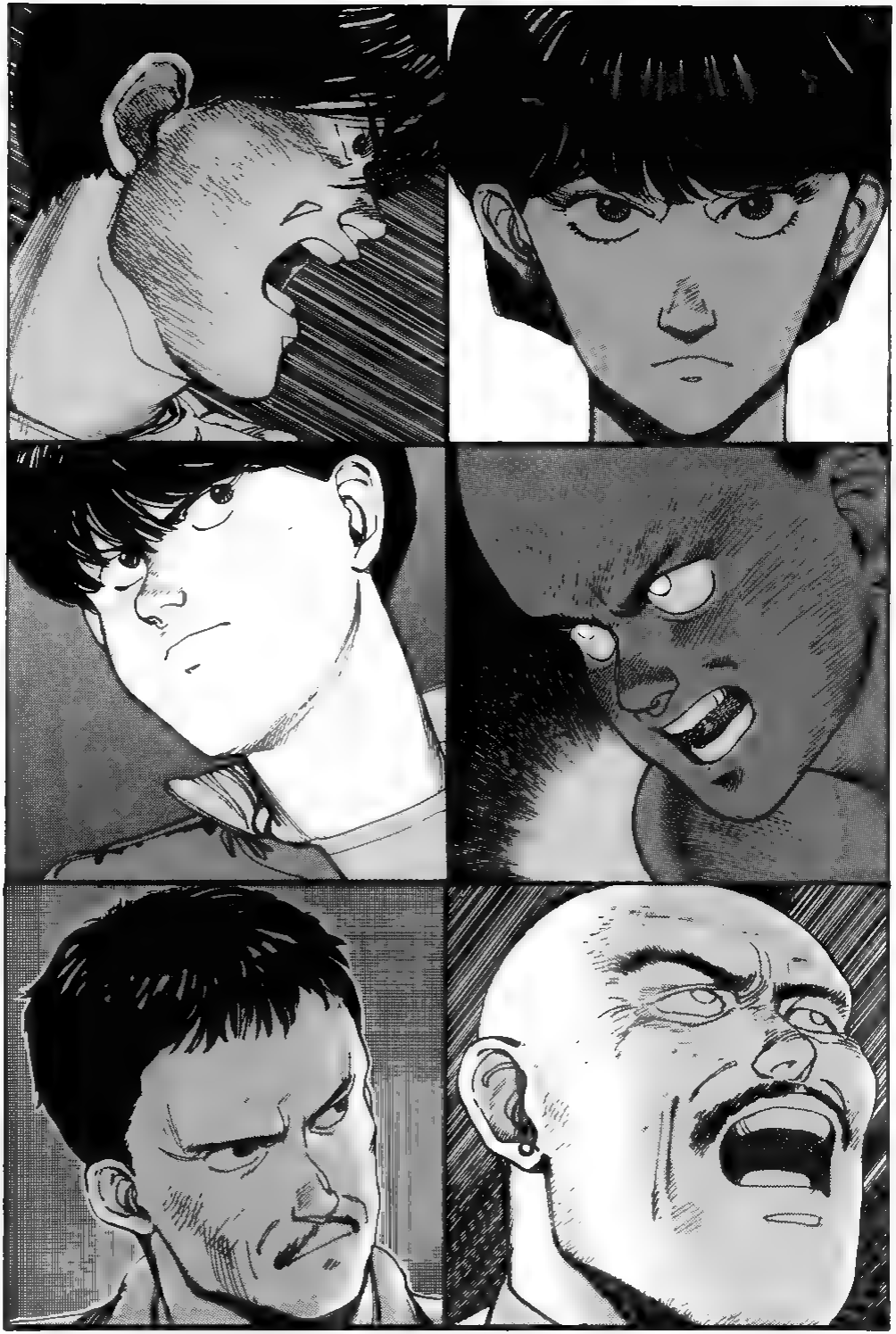


Title page of **Episode 013**
Young Magazine (Jun. 20, '83)

「金沢に行って、足の指を開いた最を見た。山上たつひこさんの漫画は本当だった！」

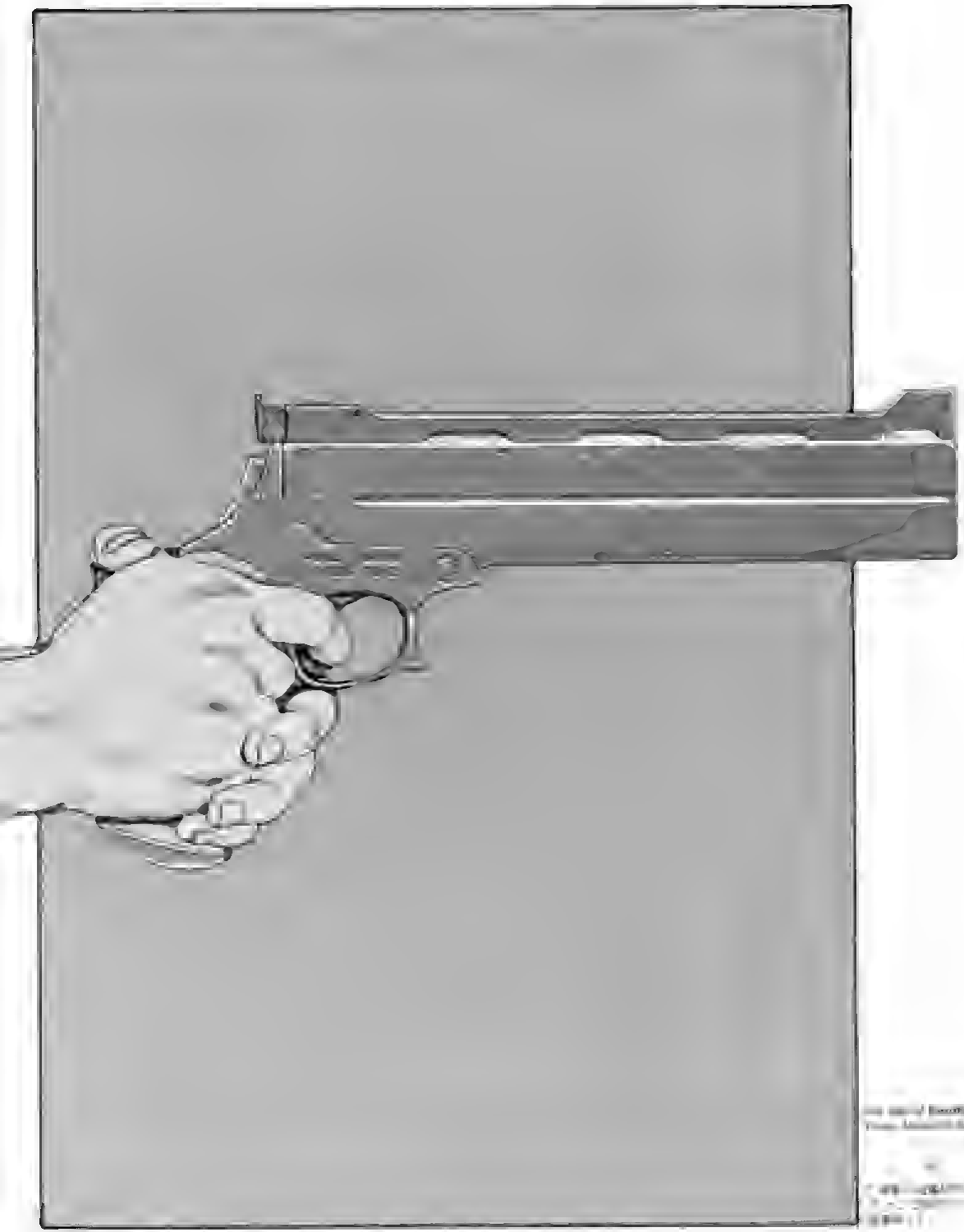
Title page of **Episode 014**
Young Magazine (Jul. 4, '83)

「近くの公園に行って、フン
コンカーを入れています」



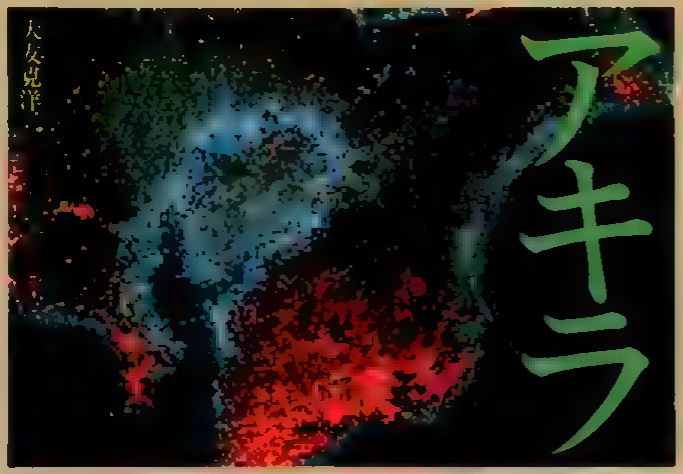
Title page of **Episode 016**
Young Magazine (Aug 1 '83)

「待望の「童夢」の単行本(双葉社刊)が発売中です。



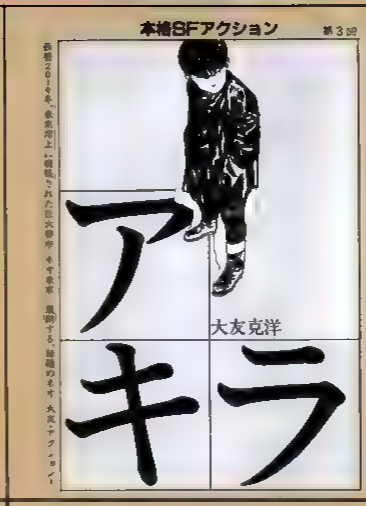
Title page of Episode 018
Young Magazine (Sep. 5, '83)

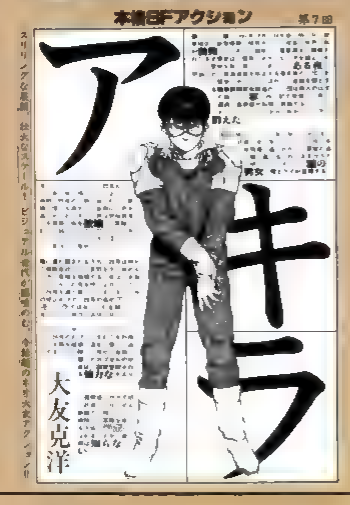
「伊豆で海水浴、まっくろけになりました」

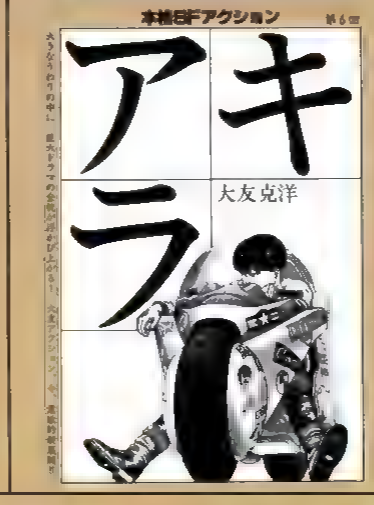


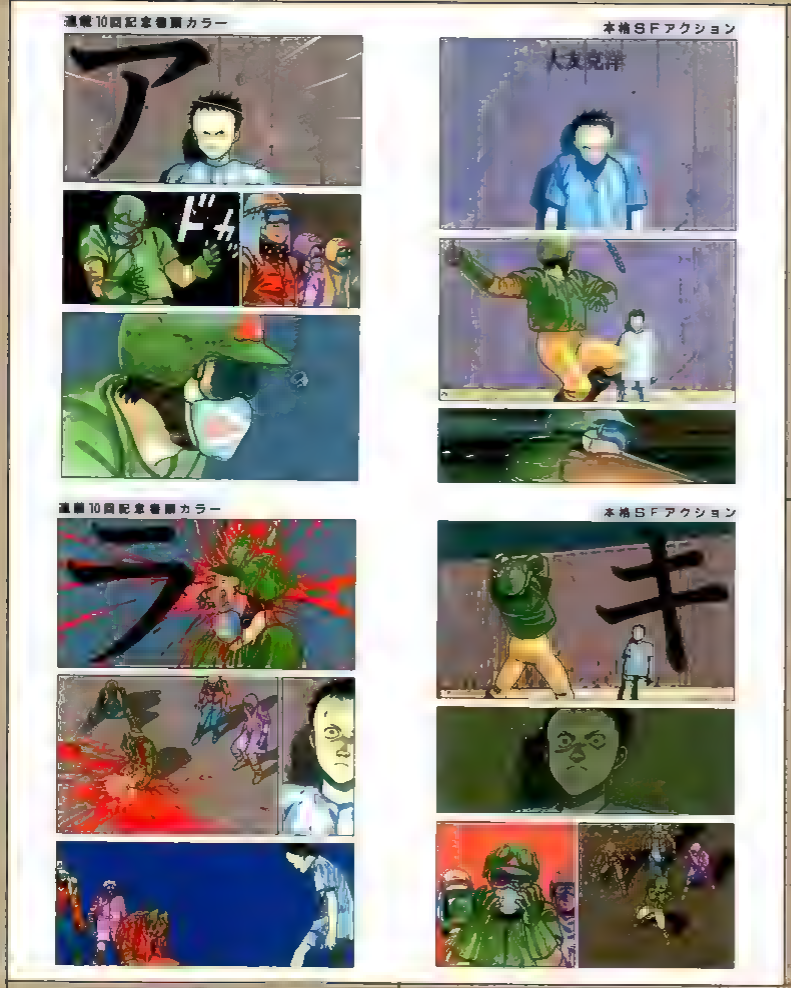
Episode 1-18

perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine








連載10回記念巻頭カラー
ア
ドォ
連載10回記念巻頭カラー
ラ
本格SFアクション
大友克洋
本格SFアクション
キ

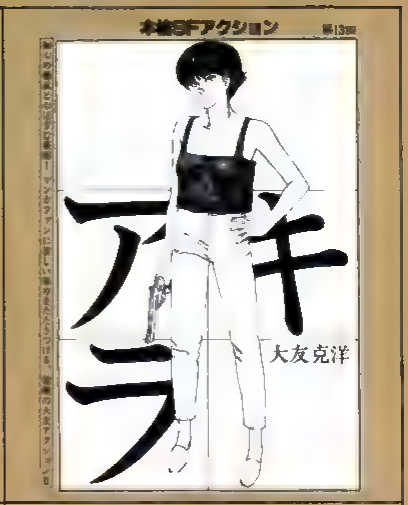
本格SFアクション
第6回
アキラ
大友克洋
本格SFアクション
第9回
大友克洋
アキラ

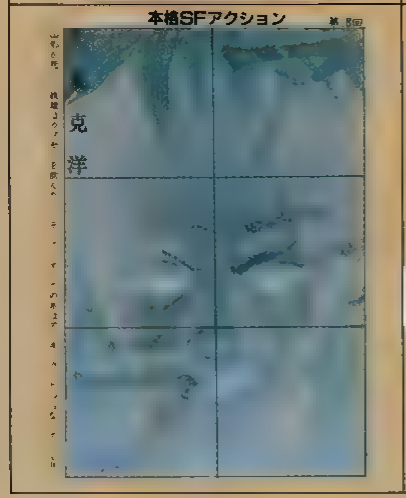
本格SFアクション
第12回
アキラ

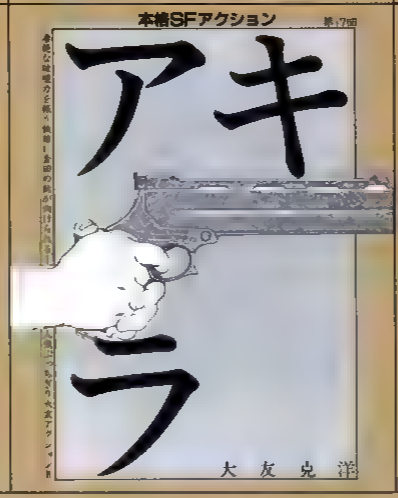
一挙掲載！SFアクション
アキラ
大友克洋

本格SFアクション
第15回
大友克洋

本格SFアクション
第14回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第13回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第 8回
克
洋

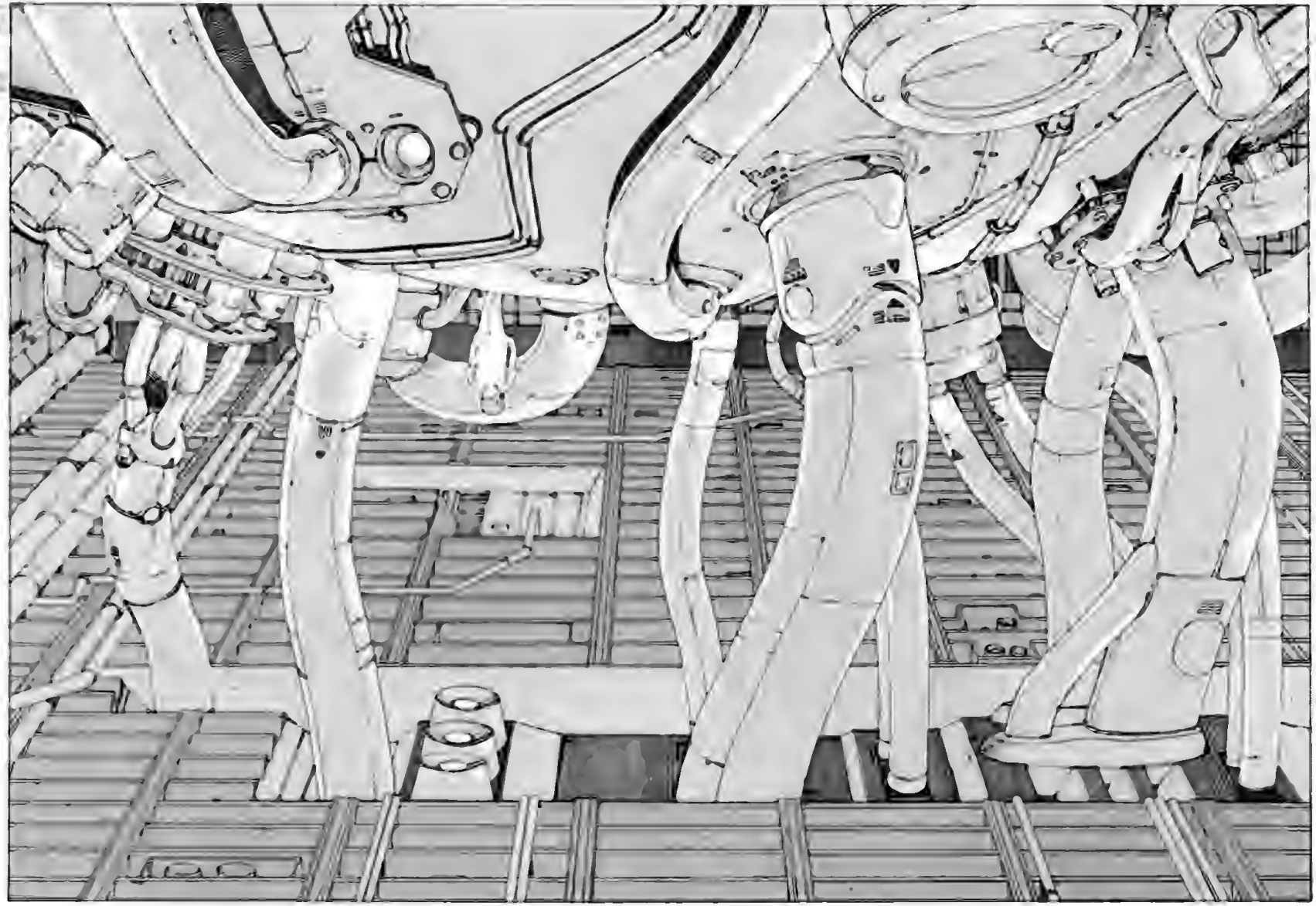

本格SFアクション
第17回
アキラ
大友克洋

本格SFアクション
第16回
大友克洋

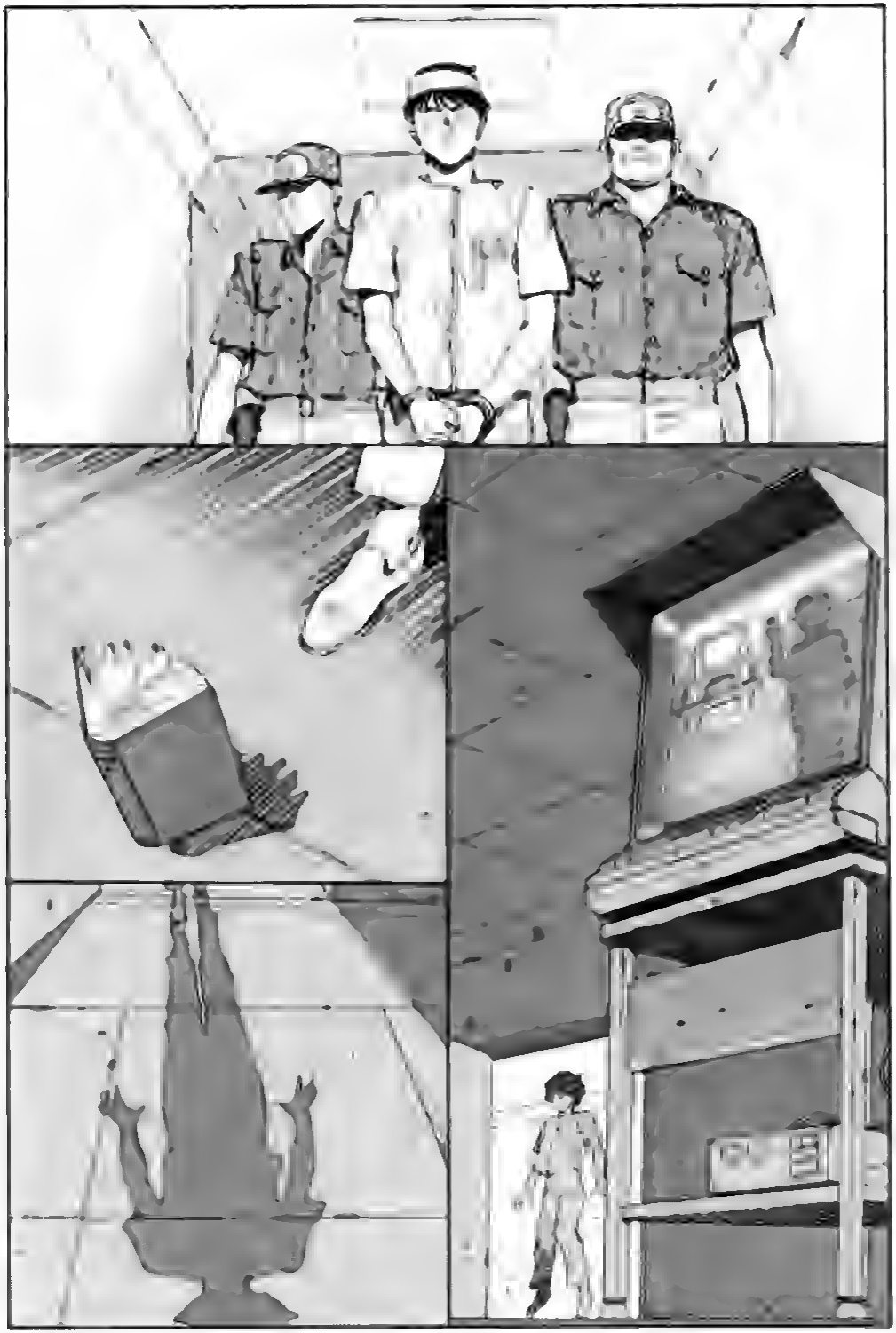
AKIRA 2

TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 19-33



...ew page of Episode 020
...y Magazine ...



Title page of **Episode 022**
Young Magazine (Nov 7 83)

「仕事場のもようがえをして、
気分をかえてみました。」

Title page of **Episode 023**
Young Magazine (Nov 21 '83)

「寒くなったのでコタツを入れました」

Title page of Episode 025
Young Magazine (Dec. 19, '83)

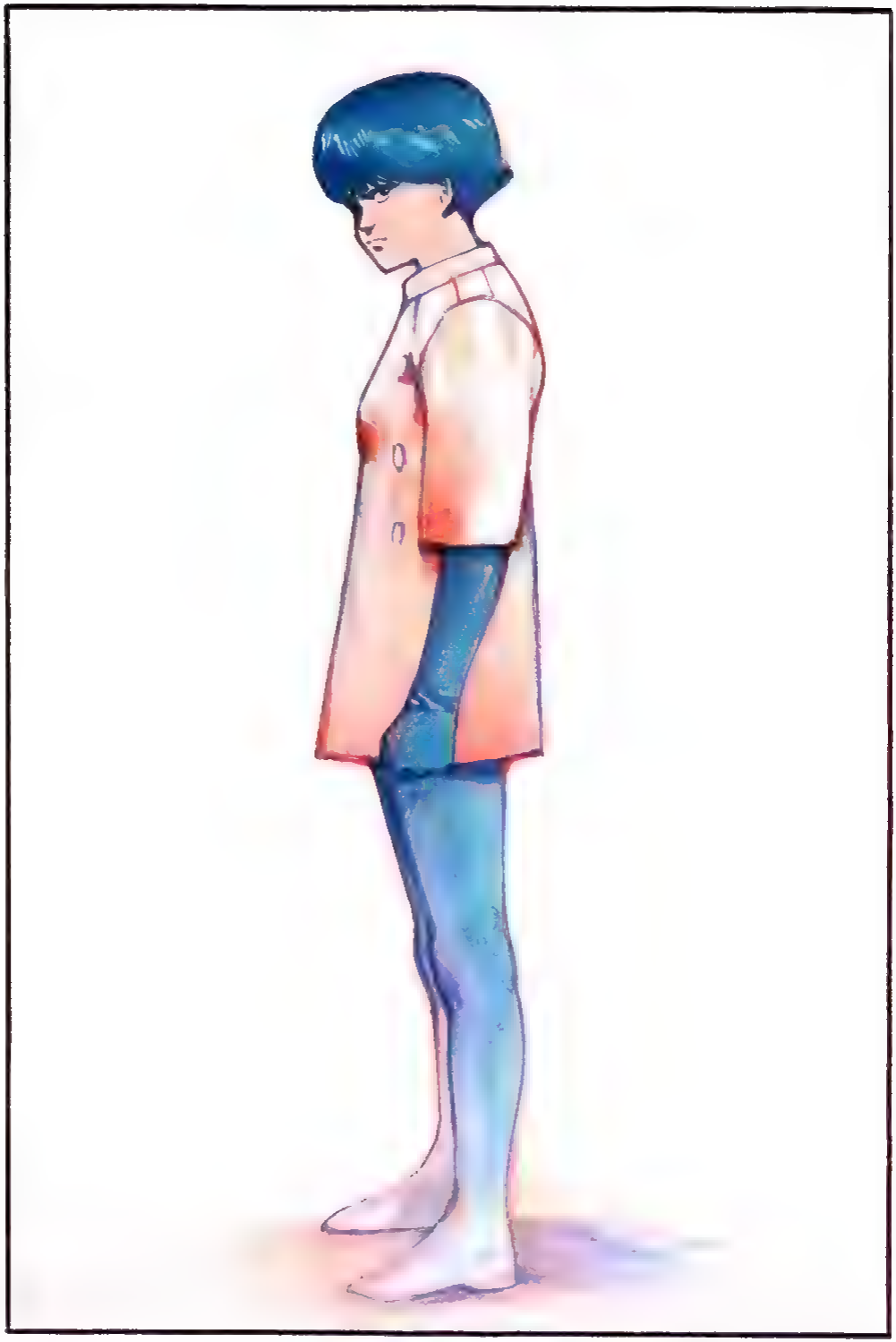
「単行本 童夢（双葉社刊）で
83年度ＳＦ大賞を受賞しました」

Title page of **Episode 026**
Young Magazine (Jan 2 '84)

「やっとアキラが出せそうです」

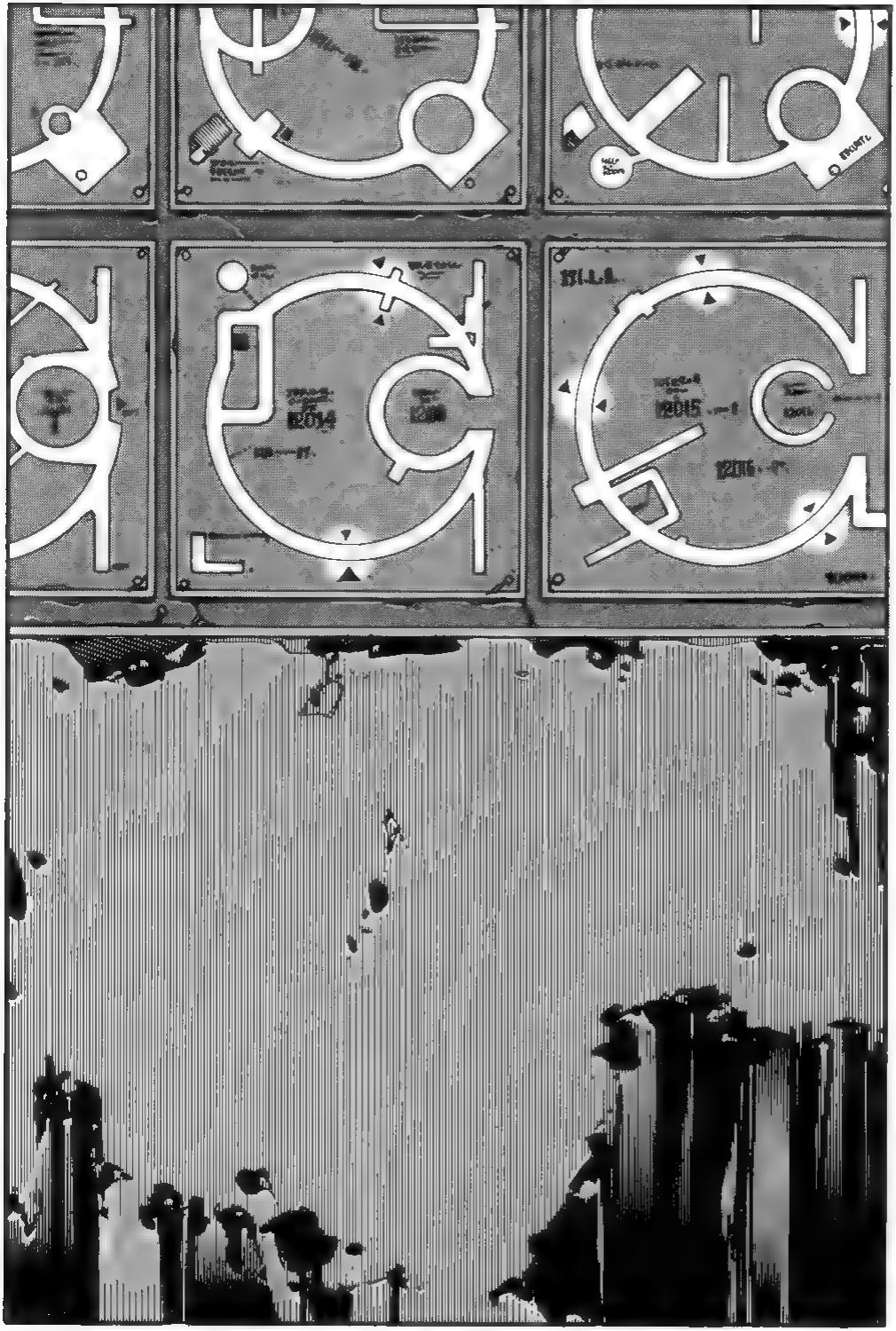
Title page of **Episode 027**
Young Magazine (Feb. 6, '84)

「お正月が来てウレシイです」



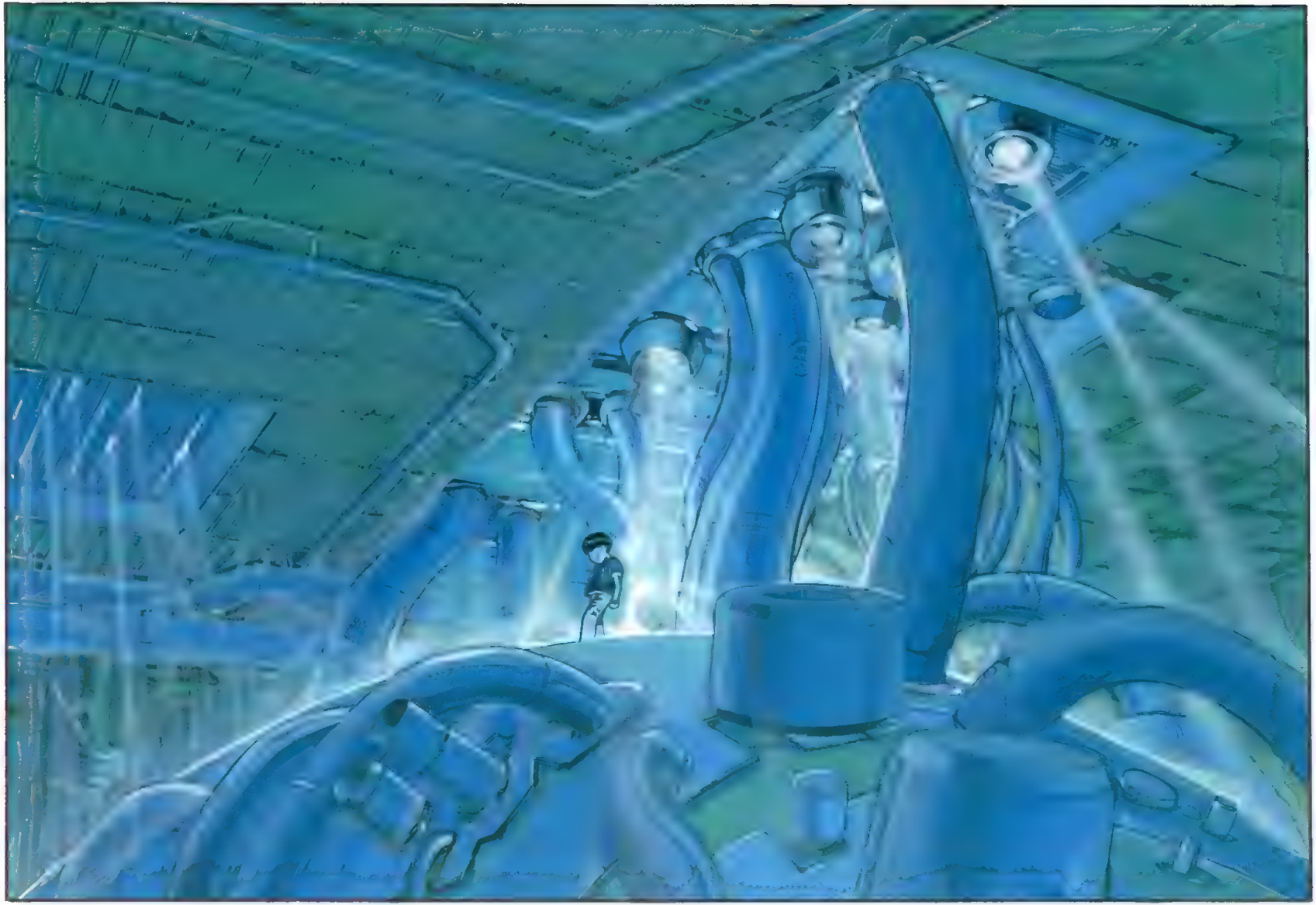
Title page of **Episode 028**
Young Magazine (Feb. 20, '84)

「キューブリックが映画をとることになったという夕刊の記事をみて、うれしかった」



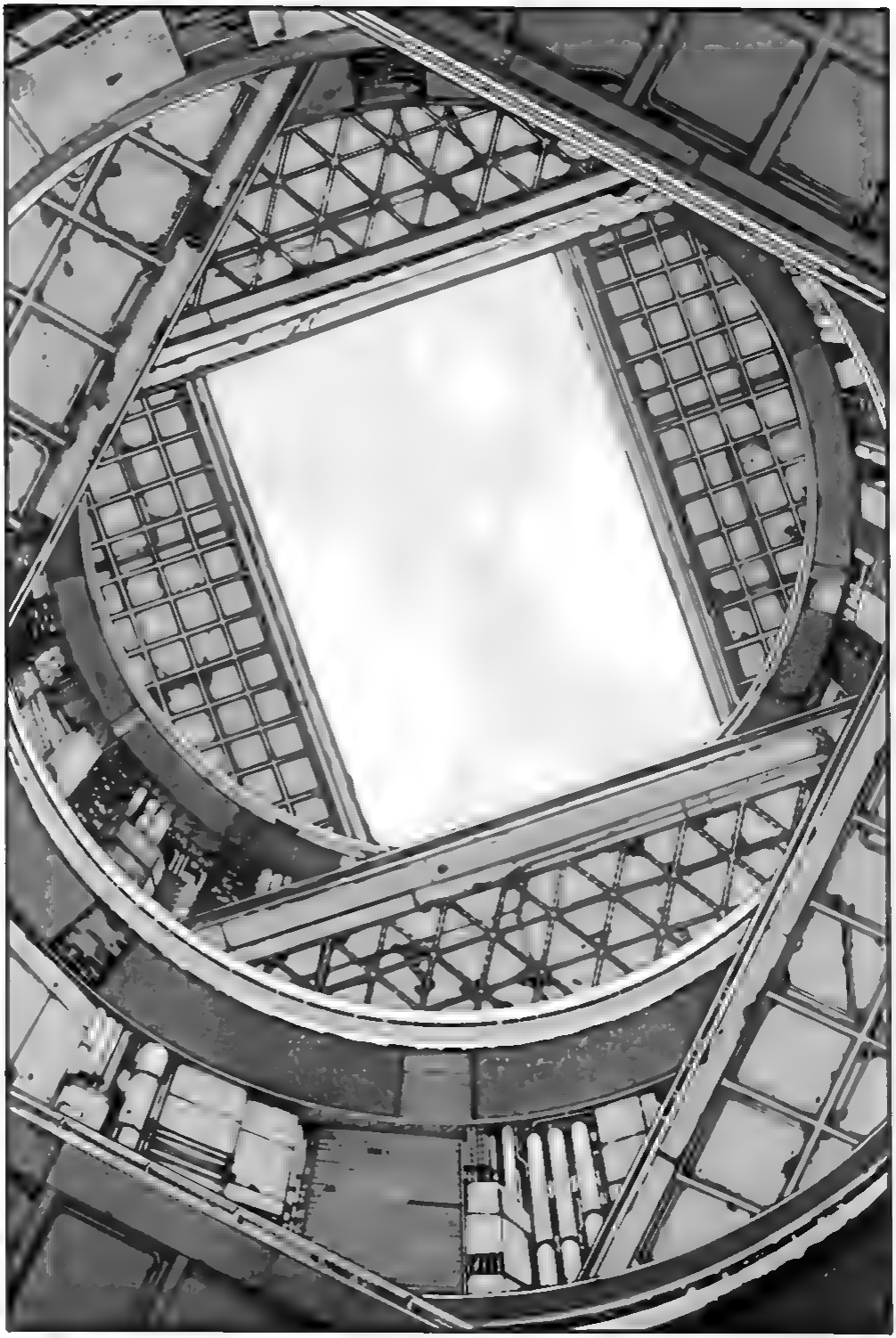
Title page of **Episode 031**
Young Magazine (Apr 2 '84)

「桜前線は今、どのへんまで来てるんでしょうね」



Title page of **Episode 032**
Young Magazine (Apr 16, '84)

「カラーをたくさん描いて、楽しかったです」



Title page of Episode 033
Young Magazine May

AKIRA

第36回のみのタイトル・ロゴ。写植のブロードウェーを使用。この回からしばらく英語表記になる。「そろそろあきたので変えようと思っていたのと、前回から第2章に入ったので。この頃アールデコが趣味で、それ風の書体ということで決めました。実際載せてみたらあまり気に入らなかったので、1回しか使いませんでしたが」

AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO

第37回〜第48回までのタイトル・ロゴ。作者名も同様の書体で「OHTOMO KATSUHIRO」の英語表記になる。「これもアールデコですが、収まりがこちらの方がいいと思ったので。1920〜1930年代に建てられたニューヨークの摩天楼、アールデコ式のを原稿にも描いています。そしてこの摩天楼、ネオ東京が破壊されて、第3部「平田ロゴ」になります。さらにOHTOMOからHを抜いたのも第3部から。詳しい理由は忘れましたが、字づらが気に入らなかったのかなあ」

AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

第72回〜第120回までのタイトル・ロゴ。作者名も同書体の英語表記に。「最終章である第4部に入り、これだと思っていたものを使いました。単行本ロゴに近い「ＡＫＩＲＡ」本来のイメージだと思います。第94回はこのロゴのバックに、逆さにしたものを濃度を落として入れ、ロシア語みたいにしてみました」なお、第85回は絵柄にある電飾をタイトル・ロゴとして使用している。

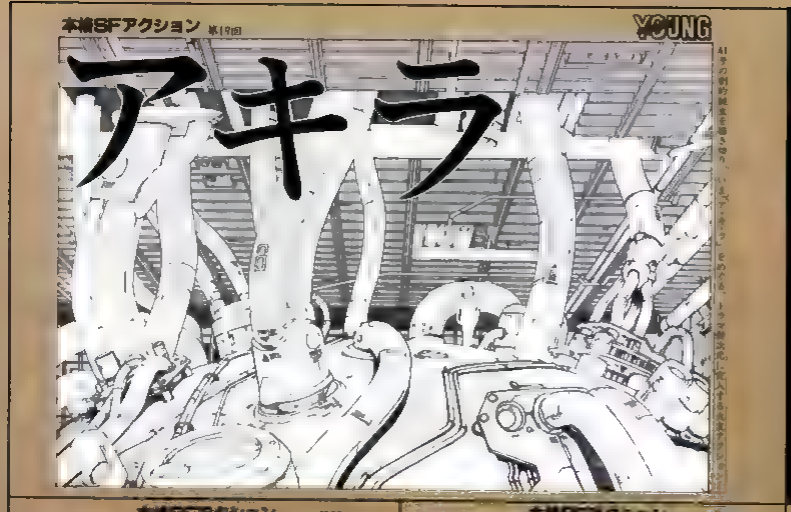
AKIRA

単行本のタイトル・ロゴ。「インパクト」という書体の上部をカットしたもの。堂々としてシンプルで、アメコミ風のバタくささがあるものとして、単行本全体のフォーマットにあわせて決められた。

アキラ

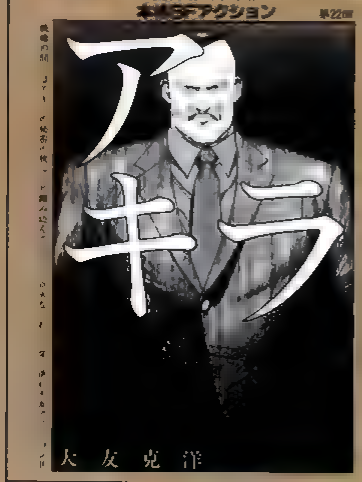
第1回〜第35回までのタイトル・ロゴ。写植の太教科書体を使用したが、「キ」を大きくするなどボリュームを調整してある。それまでの大友作品の、シンプルなゴチックか明朝体を小さくあしらったものとは一変し、堂々と配置された。「書体は第1回の表紙のイメージにあわせました。アルファベットでもよかったんですが、わかりやすさとインパクトを考えてカタカナに。3文字の配列のバリエーションをやりつくした後、第35回では昔のスタイルのように小さく入れています」なお、第28回は変形レンズで右長斜体にしてある。

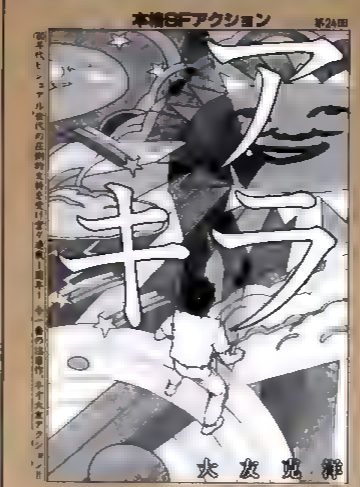
第49回〜第71回までのタイトル・ロゴ。漫画家平田弘史氏の手によるもので、詳細は別ページに。第49回〜第55回は作者名の代わりに、「KATSUHIRO OTOMO'S」が入り、第56〜第71回は漢字の「大友克洋」に戻る。「書道っぽいロゴにしたかった。小さくまとまったものより、はみでていく勢いのあるものが欲しかったんです。横に置いてみると英語のようにみえるという発見がありまして、第54回はそうしてあります」



Episode 19-33

perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine



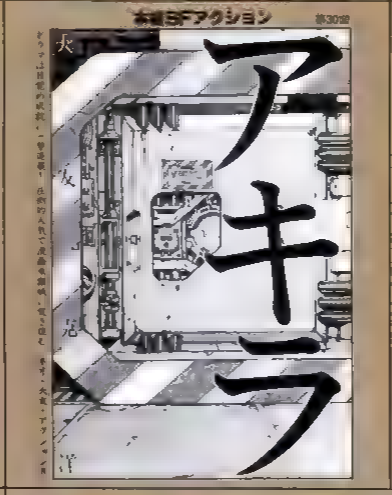


本格SFアクション
第28回
アキラ
大友克洋

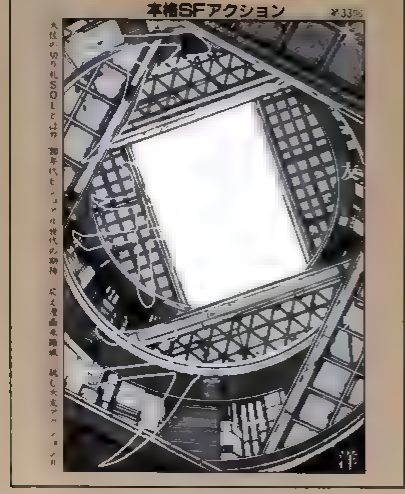
本格SFアクション
第27回
アキラ
大友克洋

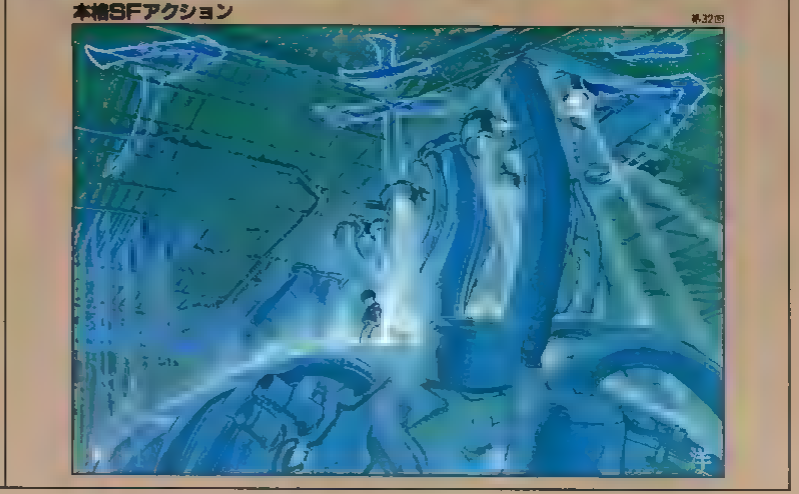
本格SFアクション
第26回
アキラ
大友克洋

本格SFアクション
第31回
アキラ
大友克洋

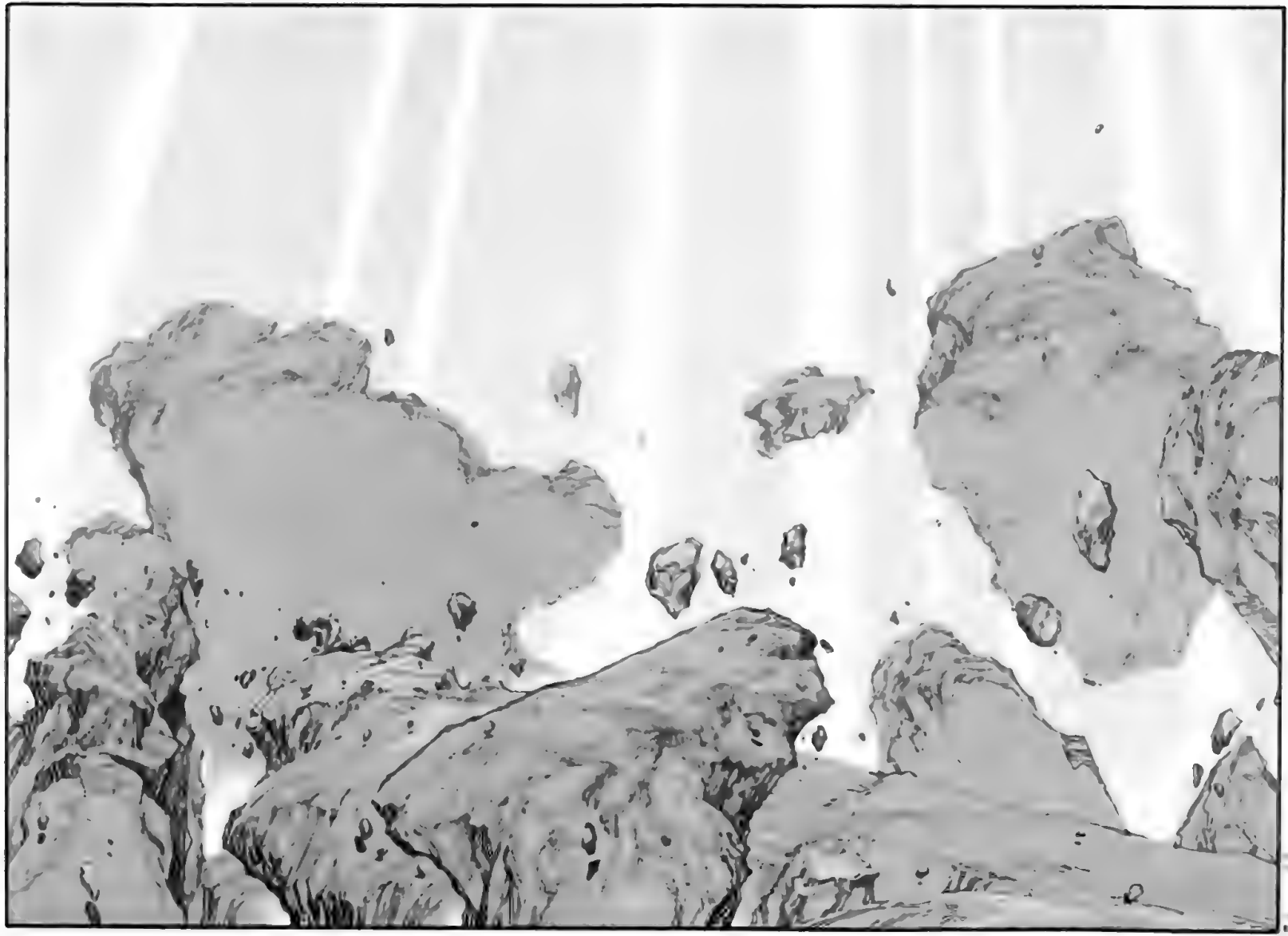

本格SFアクション
第30回
アキラ
大友克洋

本格SFアクション
第29回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第33回
大友克洋


本格SFアクション
第32回
大友克洋

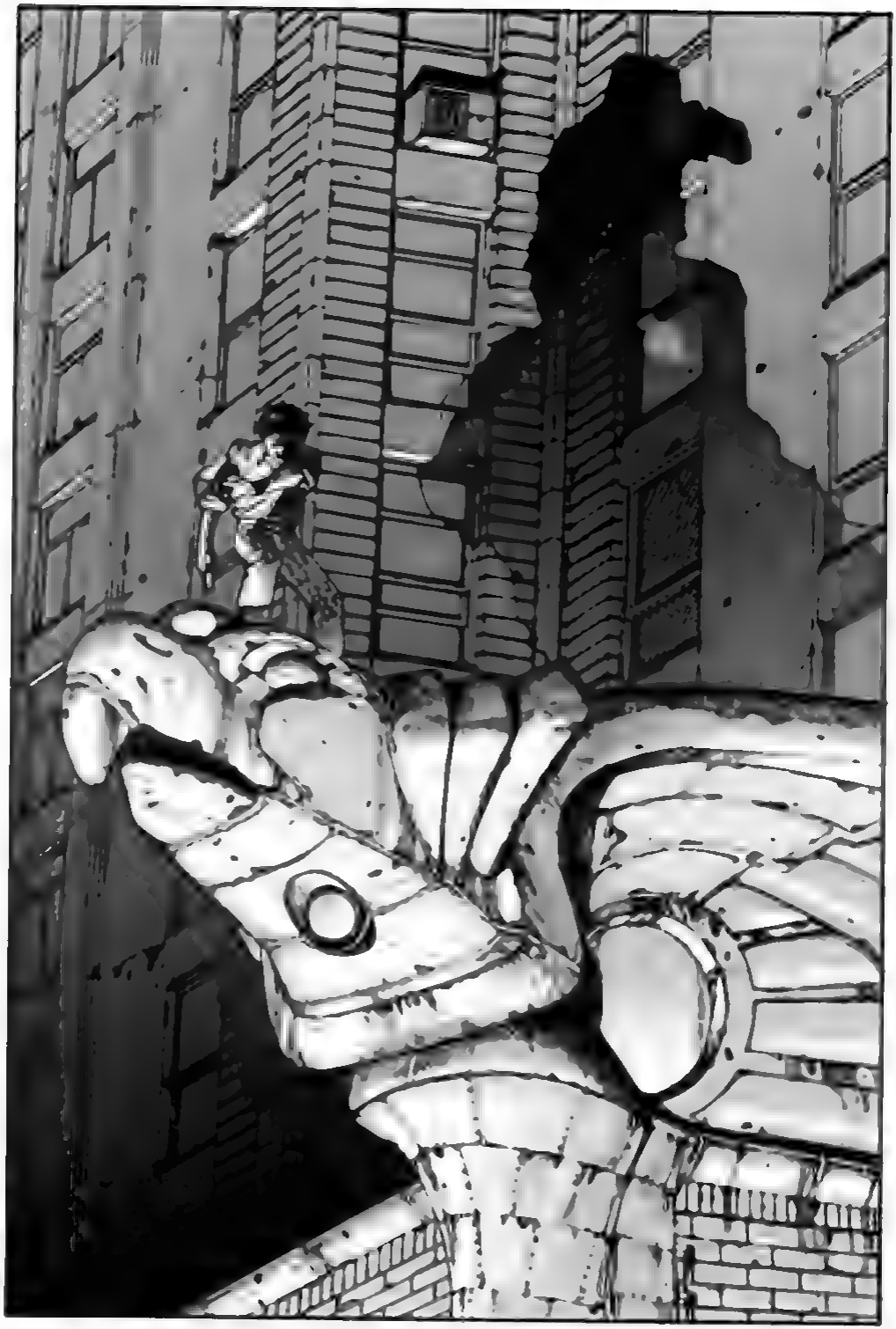
TITLE-PAGE
COLLECTION
Episode 34-48
AKIRA
3

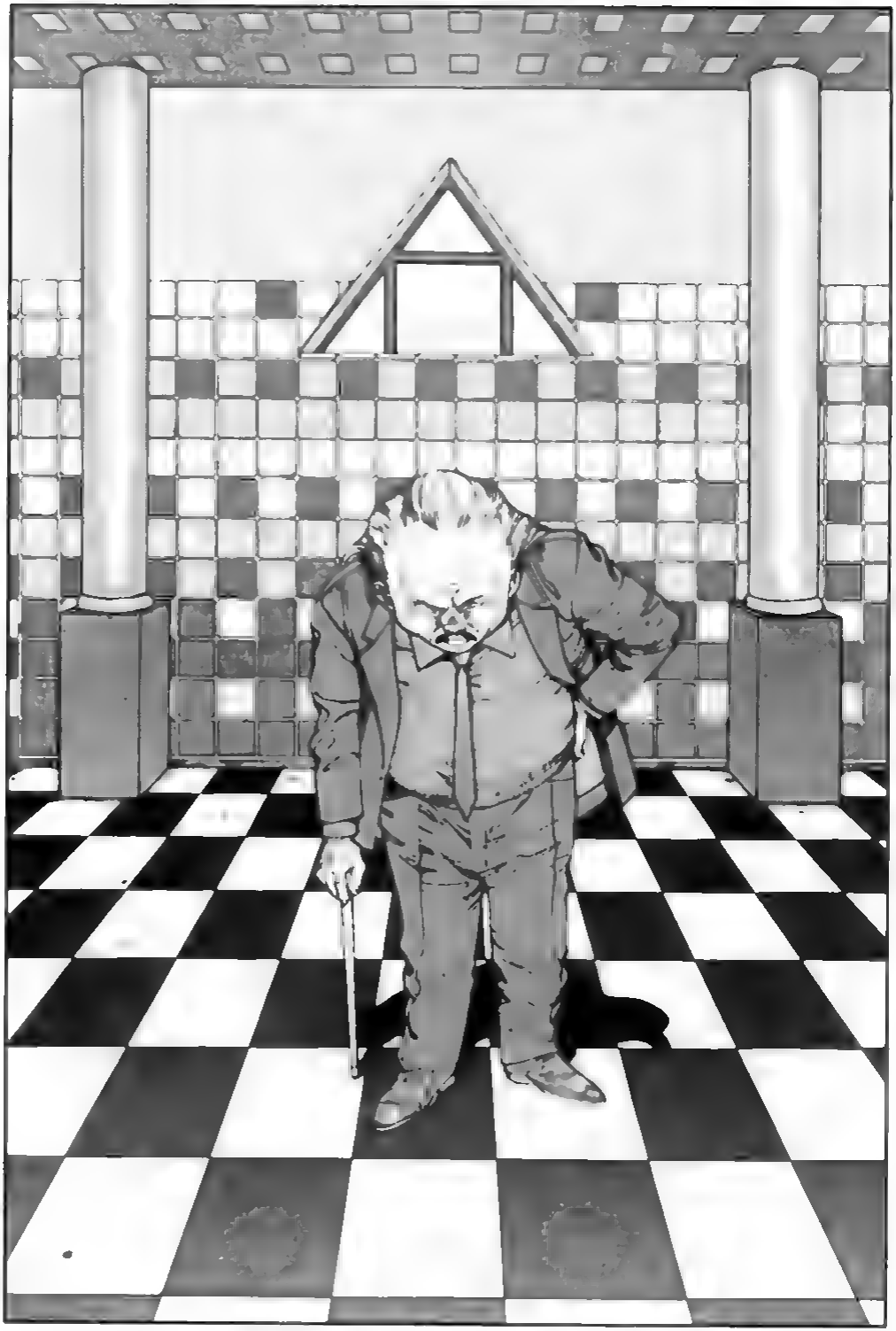


35

Title page of Episode 036
Young Magazine (Jun 18 '84)

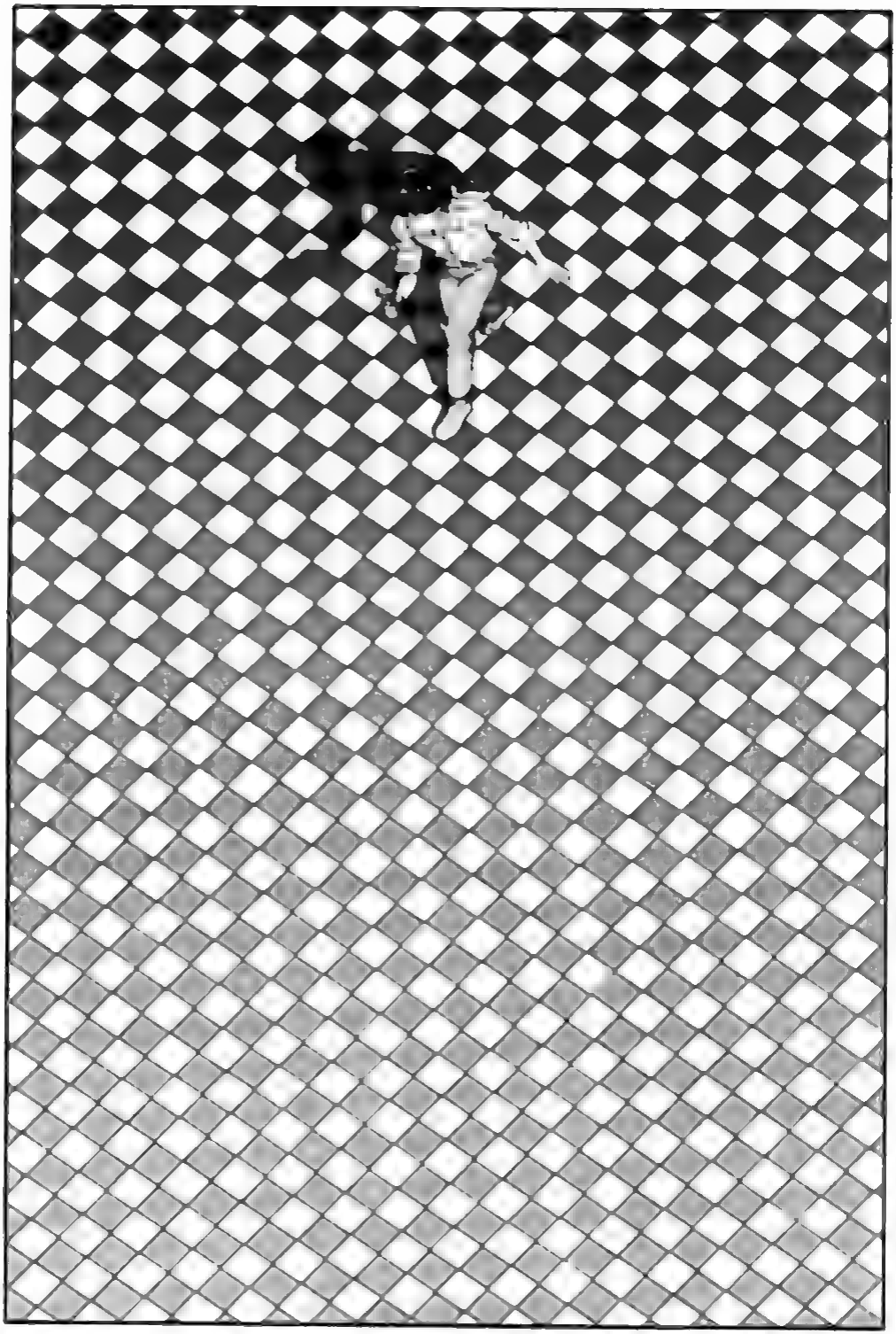
「「アキラ」で第8回講談社漫画賞を受賞しました うれしいです」



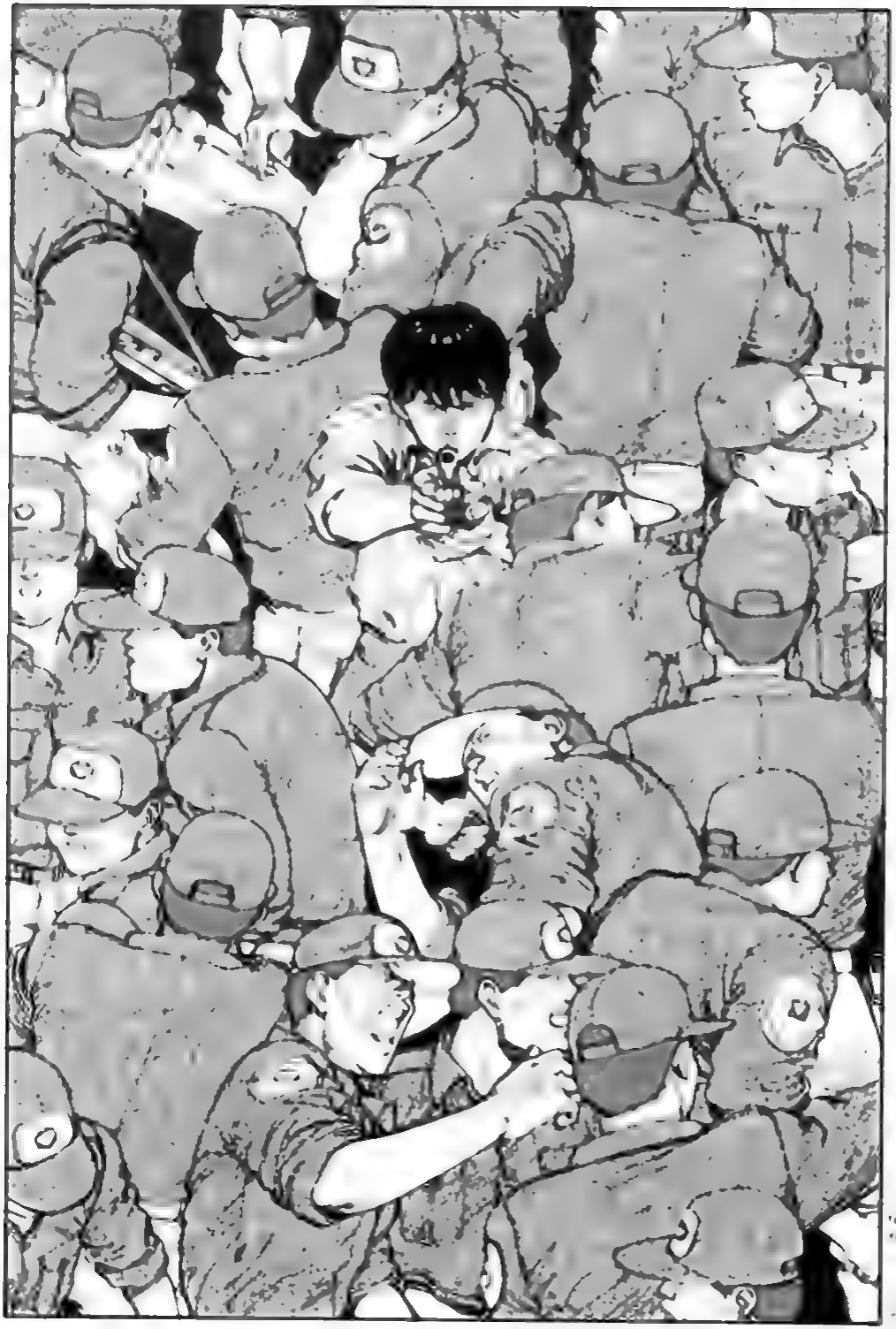


Title page of **Expanda 039**
Fantasy Magazine (Aug '90 $4)

The page of Episode 040
Young Magazine Sep. 04



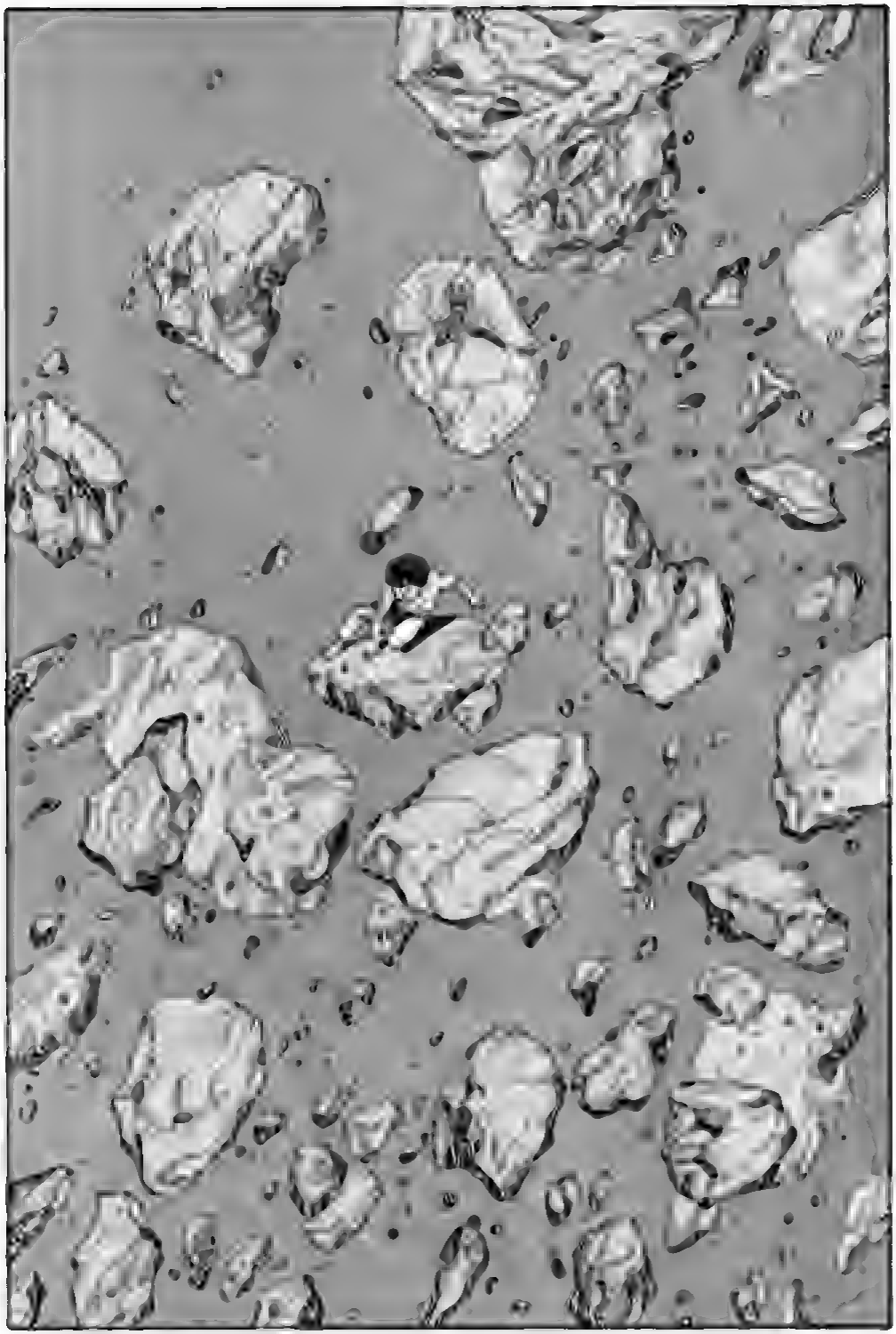
Title page of Episode 041
Young Magazine (Sep 17 '96)

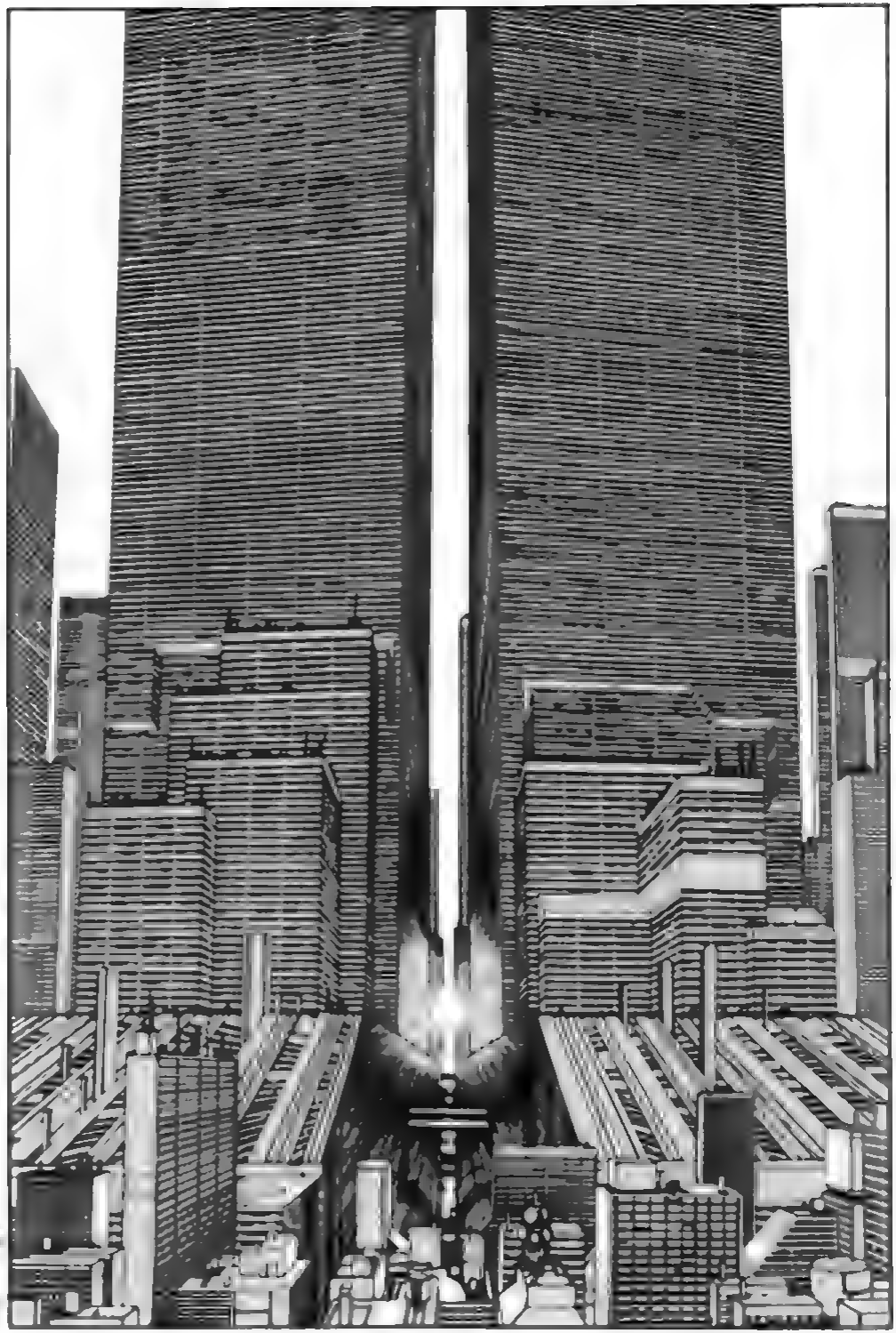


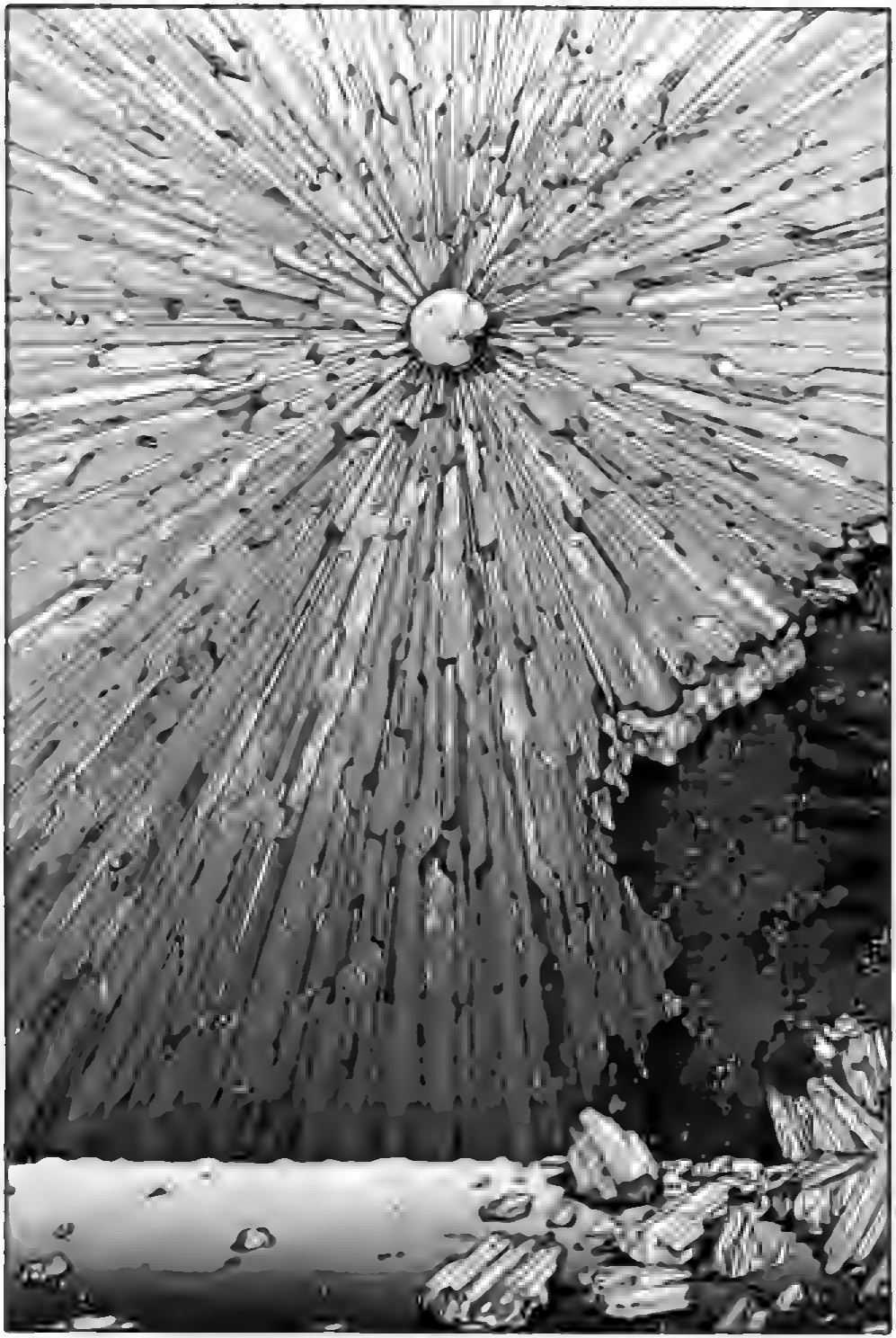
The page of Episode 042

Title page of **Episode 043**
Young Magazine (Oct 15, 84)

「寂しくなったので、どこかへ旅行して暮どぅぃ でも食べたいですね」

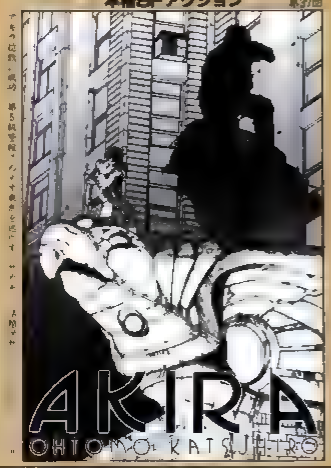






Episode 34-48

perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine



本格SFアクション 第43回

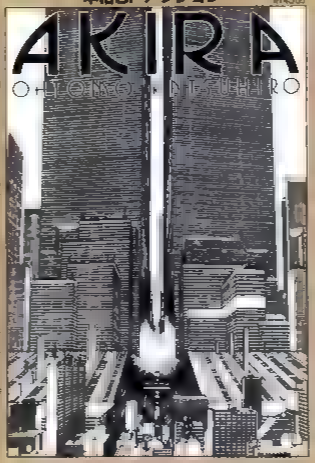
単行本第1巻 即日完売御礼 緊急重版出来中!!

本格SFアクション 第42回

本格SFアクション 第41回

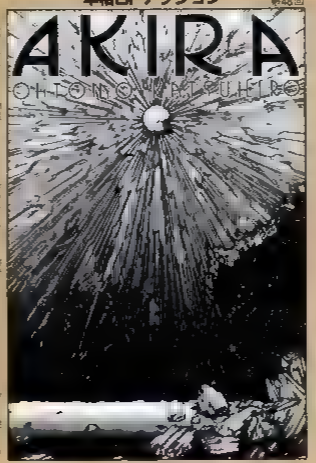
本格SFアクション 第46回

本格SFアクション 第45回



本格SFアクション 第44回

本格SFアクション 第48回

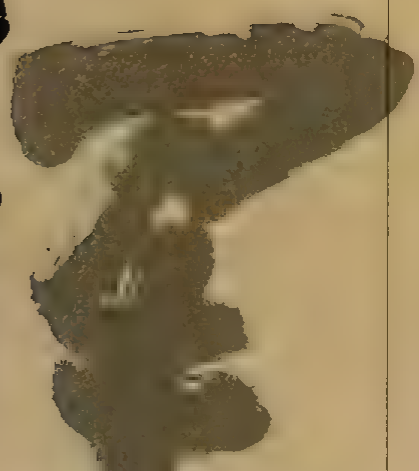


本格SFアクション 第47回

AKIRA 4

TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 49-71



「ＡＫＩＲＡ」第3章のタイトルロゴは漫画家、平田弘史(ひらた　ひろし)氏の筆文字である。平田氏は「弓道士魂」「首代引受人」「薩摩義士」などの代表作を持つ時代劇漫画の巨匠で、大友氏が敬愛する漫画家の一人。骨太なドラマ性、荒削りにして迫力ある描線とともに、平田漫画の特徴である「おのれー」「うぬー」「ぬぁんらー」と思いのたけを叩きつけたような描き文字が、第3章のテーマである大東京の興亡のパワフルなイメージに合致するので、ロゴは依頼してみよう、ということになった。

1985年1月、[illegible]は寒い日々。[illegible]の井荻にあった[illegible]で、筆に墨をふくませ気息を整えられるや、エイヤッとばかりにたちまち数十種類のロゴをものにしてくださった。ここに収録したのはその一部である。「ＡＫＩＲＡ」第3章の1回目(第49回)の扉ページを飾ったのは、その中から大友氏が選んだ決定稿。「題字/平田弘史」と銘打たれたこのロゴは、江口寿史氏がパロディーにしたり、一部で話題を呼んだ。また、この時の親交がきっかけとなって、大友氏は後に「平田弘史選集」全8巻(日本文芸社刊)のデザインを手がけることになり、同書には「装幀　大友克洋」とある。

「題字/平田弘史」通称「平田ロゴ」について。

KATSUHIRO OTOMO'S

童夢

PART 3

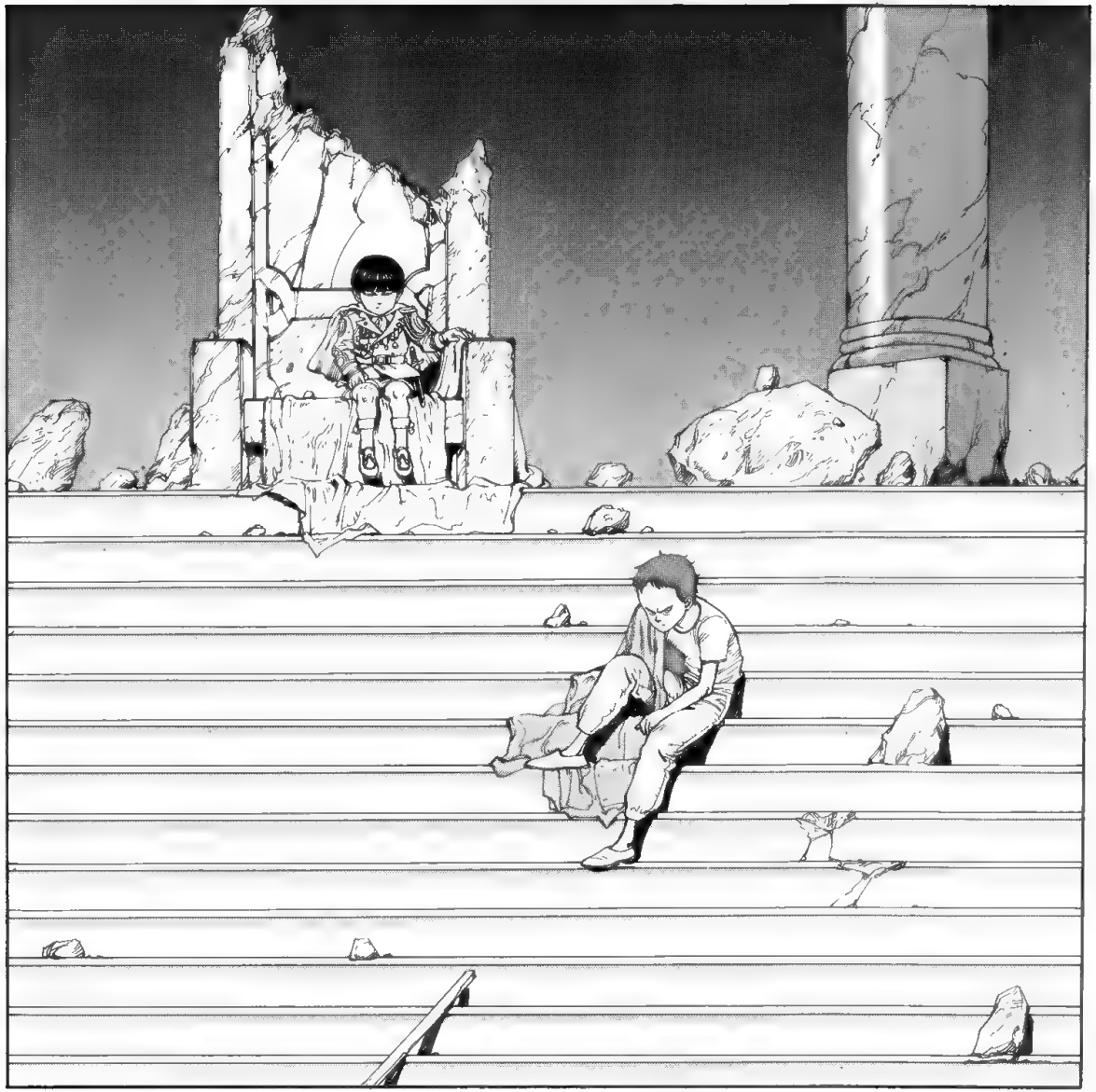
HASH ROOM COMPANY LTD. BY OTOMO KATSUHIRO

題字 平田弘史

49
7599-28991-1

Title page of **Episode 049**
Young Magazine (Mar 4, '85)

「新しい章が始まったので、がんばります」

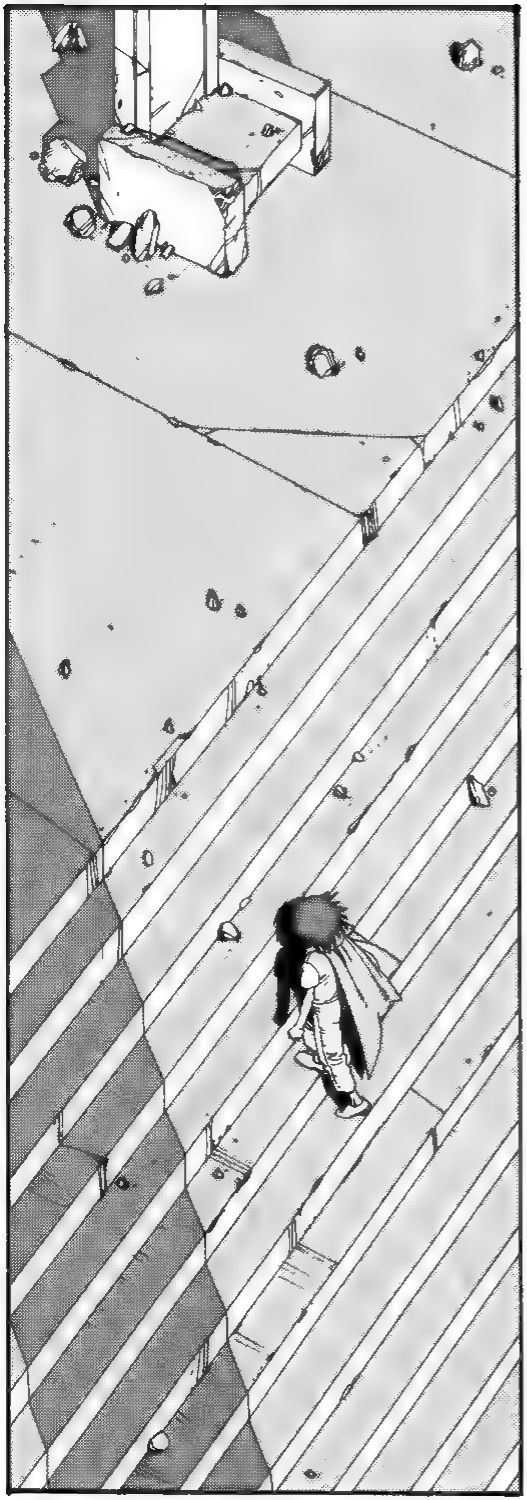


Title page of **Episode 050**
Young Magazine (Mar 18, 85)

「3月はお花見が近づいて来てうれしいですね」

Title page of **Episode 051**
Young Magazine (Apr 1, '85)

「そろそろ単行本の第2巻まとめに入りたいと思っています」

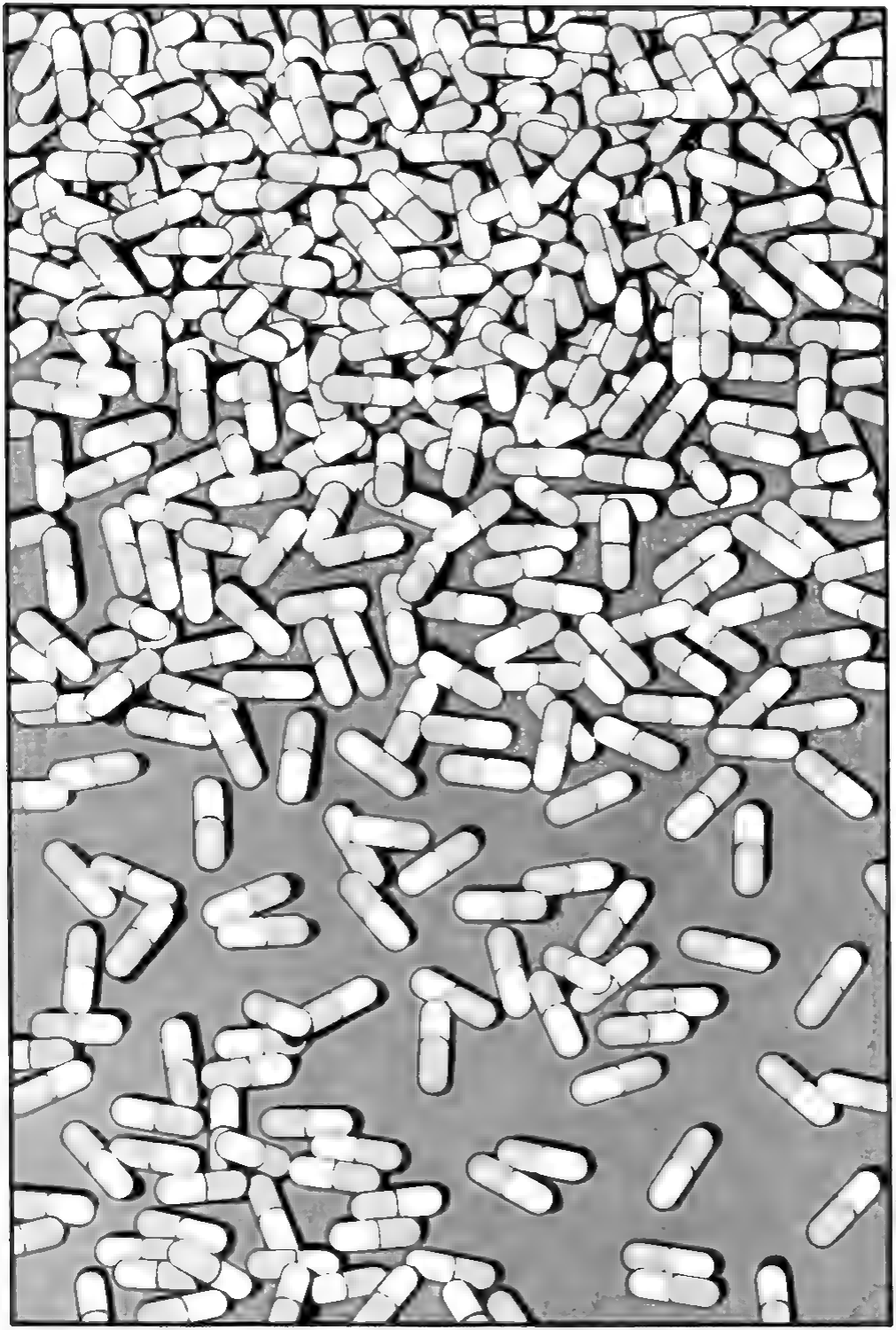


Title page of **Episode 052**
Young Magazine (Apr 15, '85)

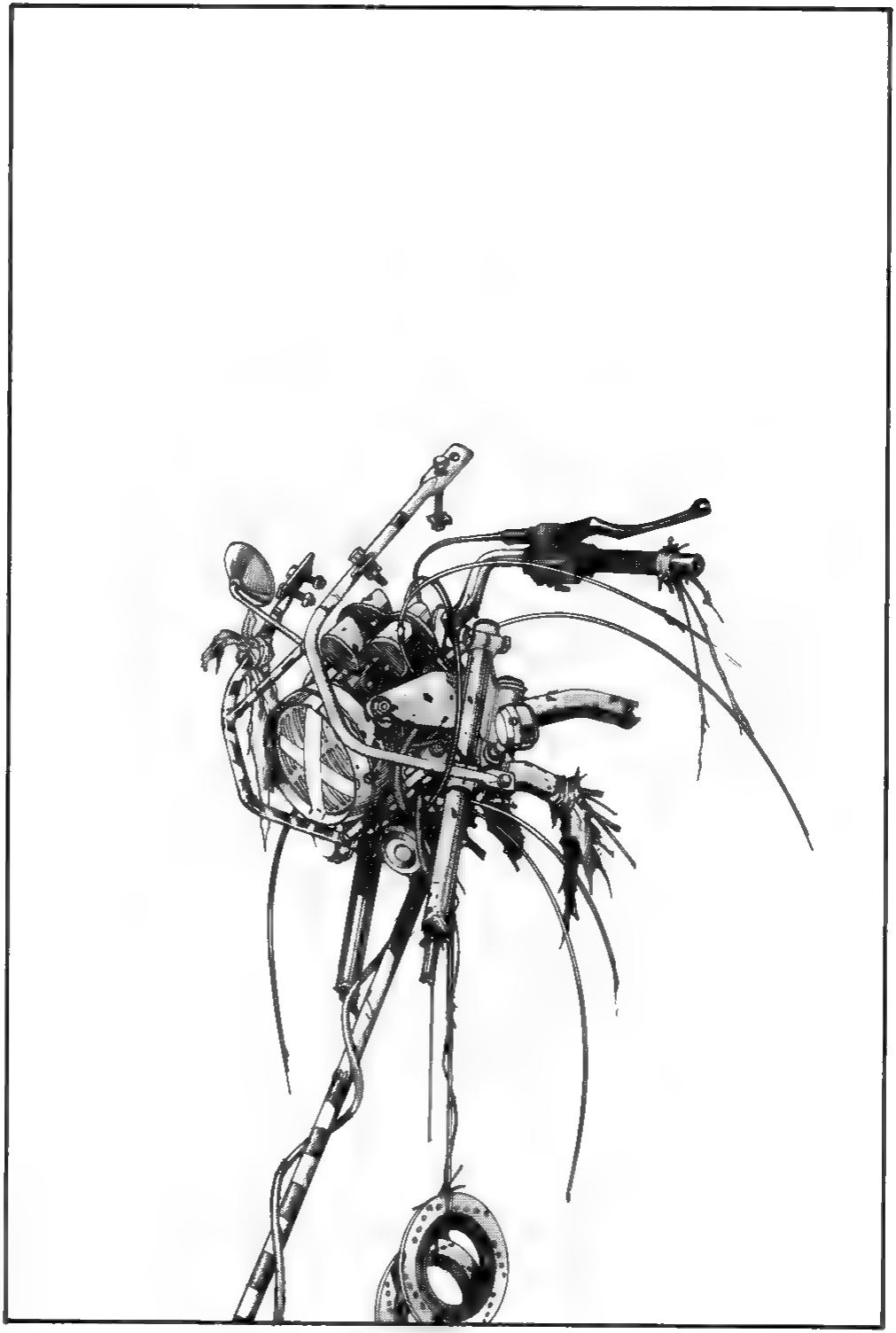
「妻の新しい洋服が欲しいですね」

Title page of **Episode 053**
Young Magazine (May 6,'85)

「仕事場に猫かきて、植木鉢をひっくりかえしたりして、困っています」

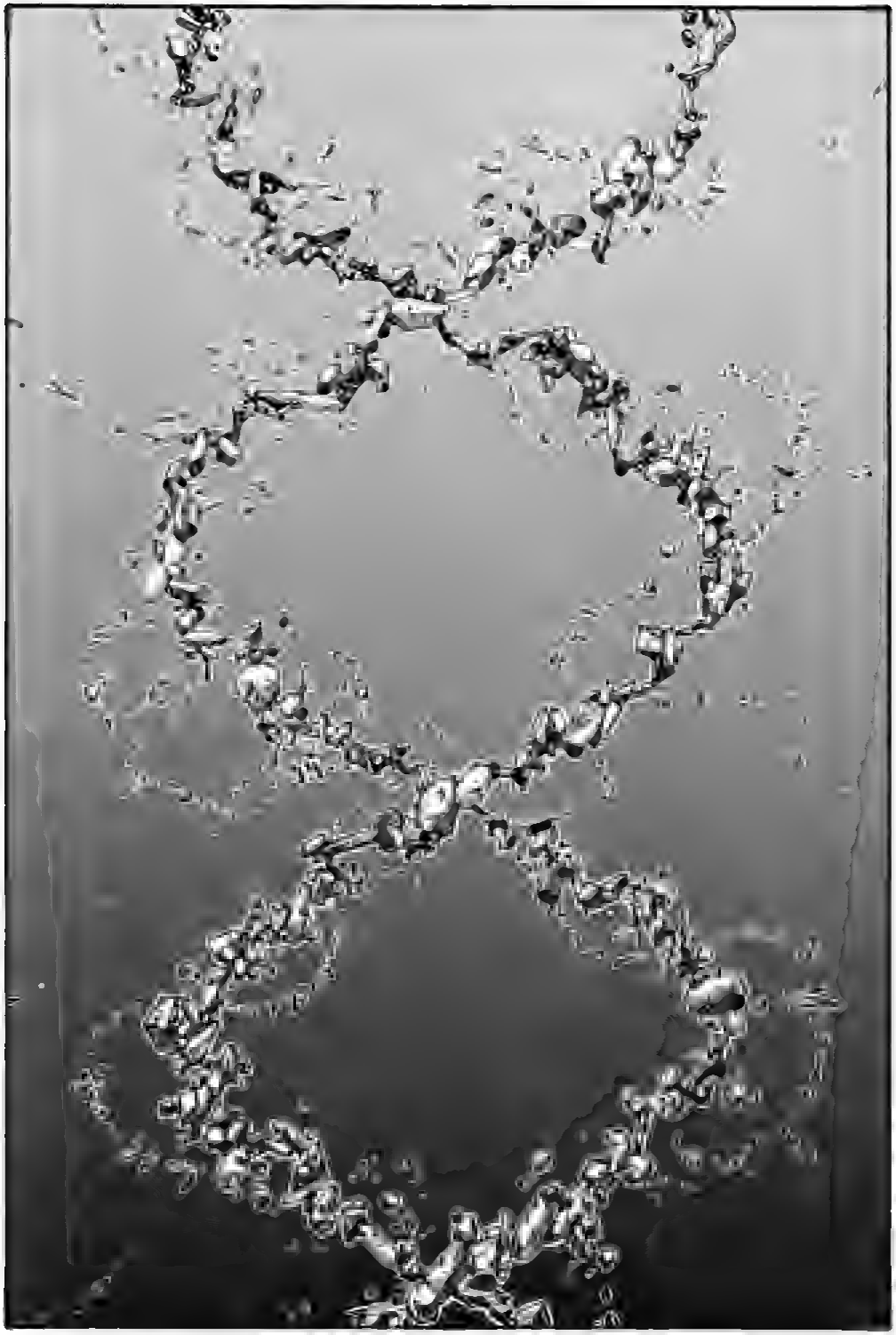


Title page of Episode 054
Young Magazine (May 20 [illegible]



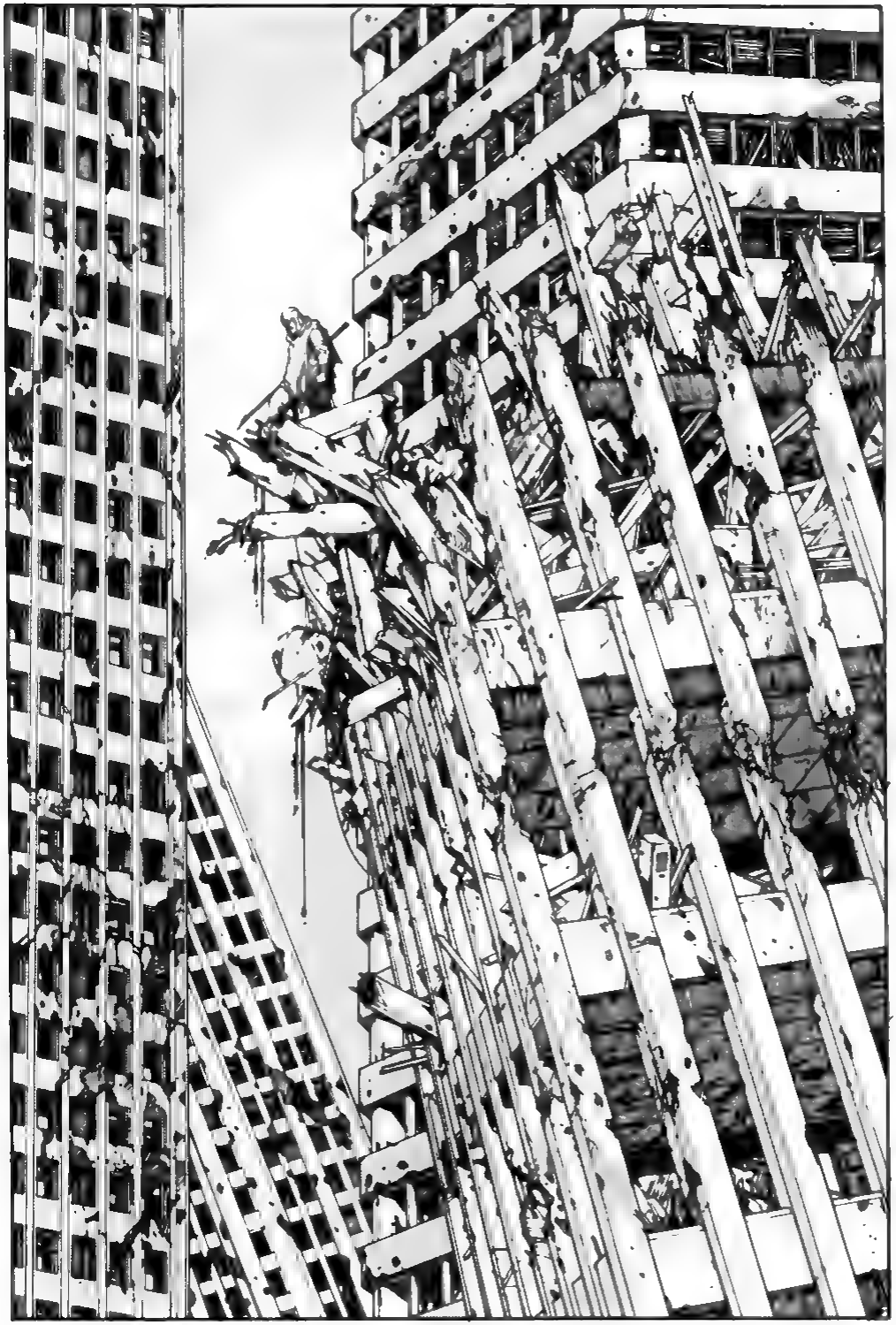
Title page of Episode 055
Young Magazine (Jun. 3, '85)

「アシスタントとの賭けに勝って、大金(？)がころがりこみそうな気配です」



Title page of Episode 057
Young Magazine (Aug 5, '85)

「梅雨が長いのでうんざりしてます。早くあければいいですね」

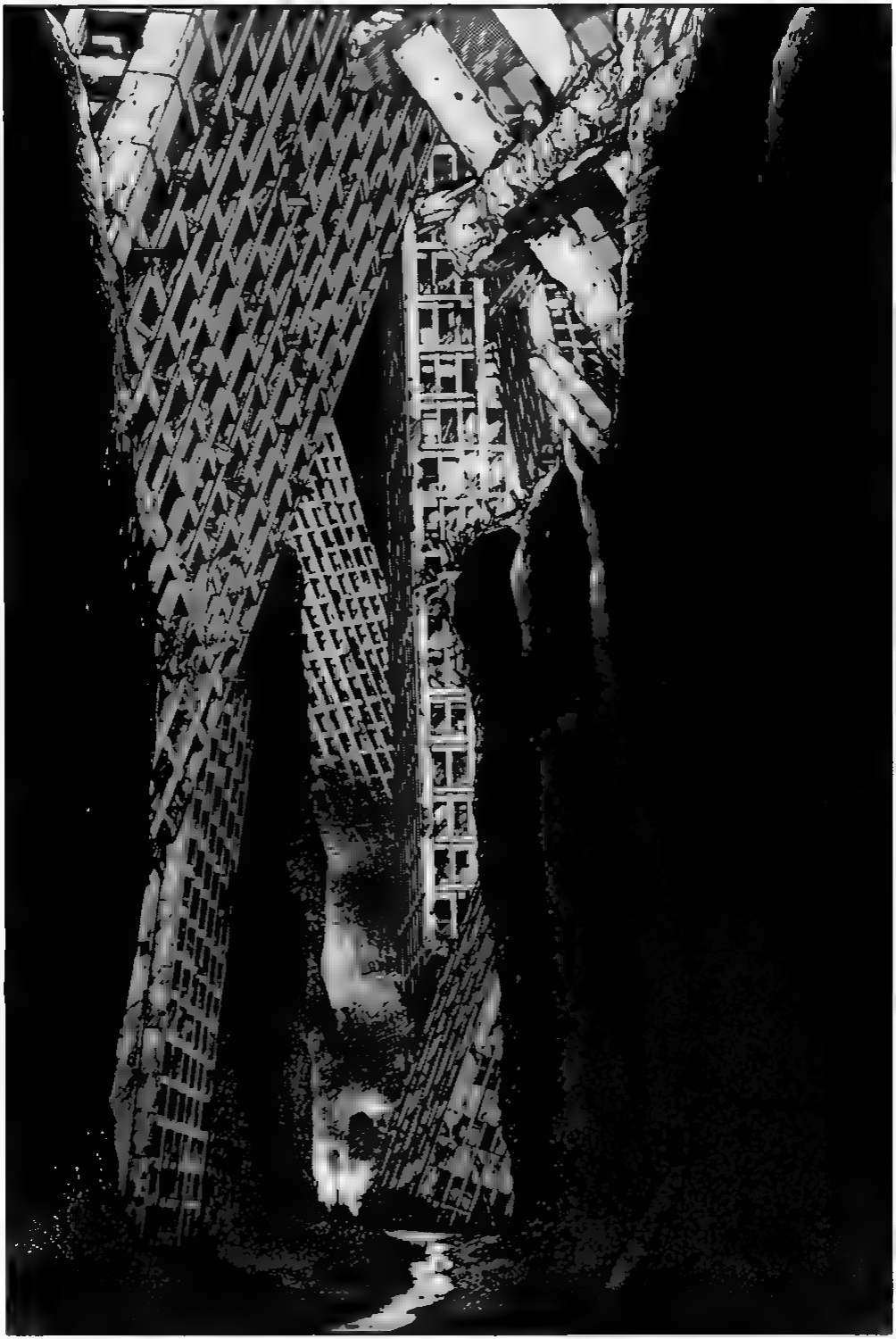


Title page of Episode 058
Young Magazine (Sep 2 '85)

「メガネがこわれたので新しいのを買おうと思っています

Title page of **Episode 059**
Young Magazine (Sep. 16,'85)

「9月4日に『アキラ』の単行本の第2巻がでますので、よろしく」

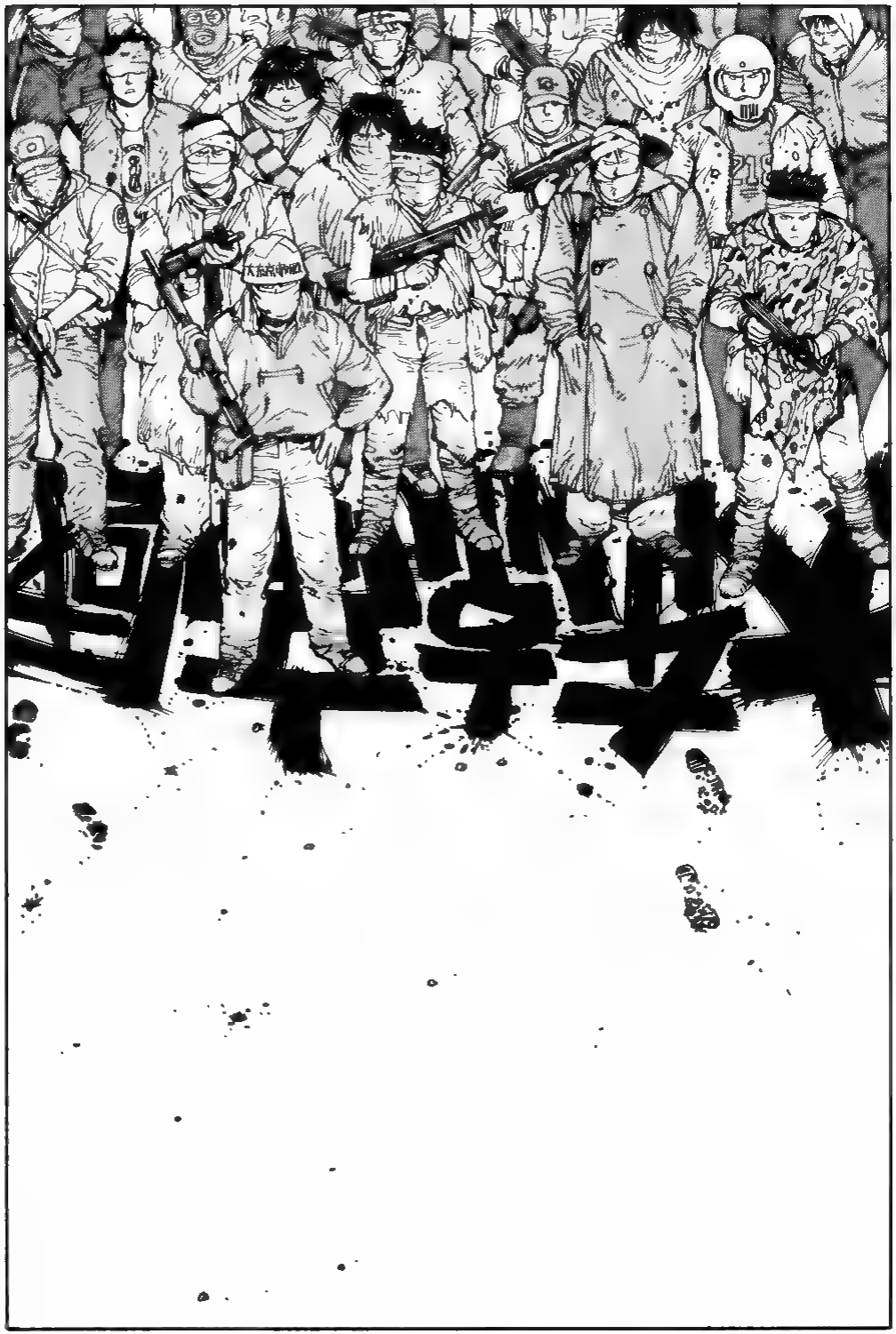


Title page of Episode 061
Young Magazine (Nov 6 '85)

「カ…のおいしい季節なのて
ニ食い旅行てもしたいですね

Title page of Episode 063
Young Magazine (Dec 2 '85)

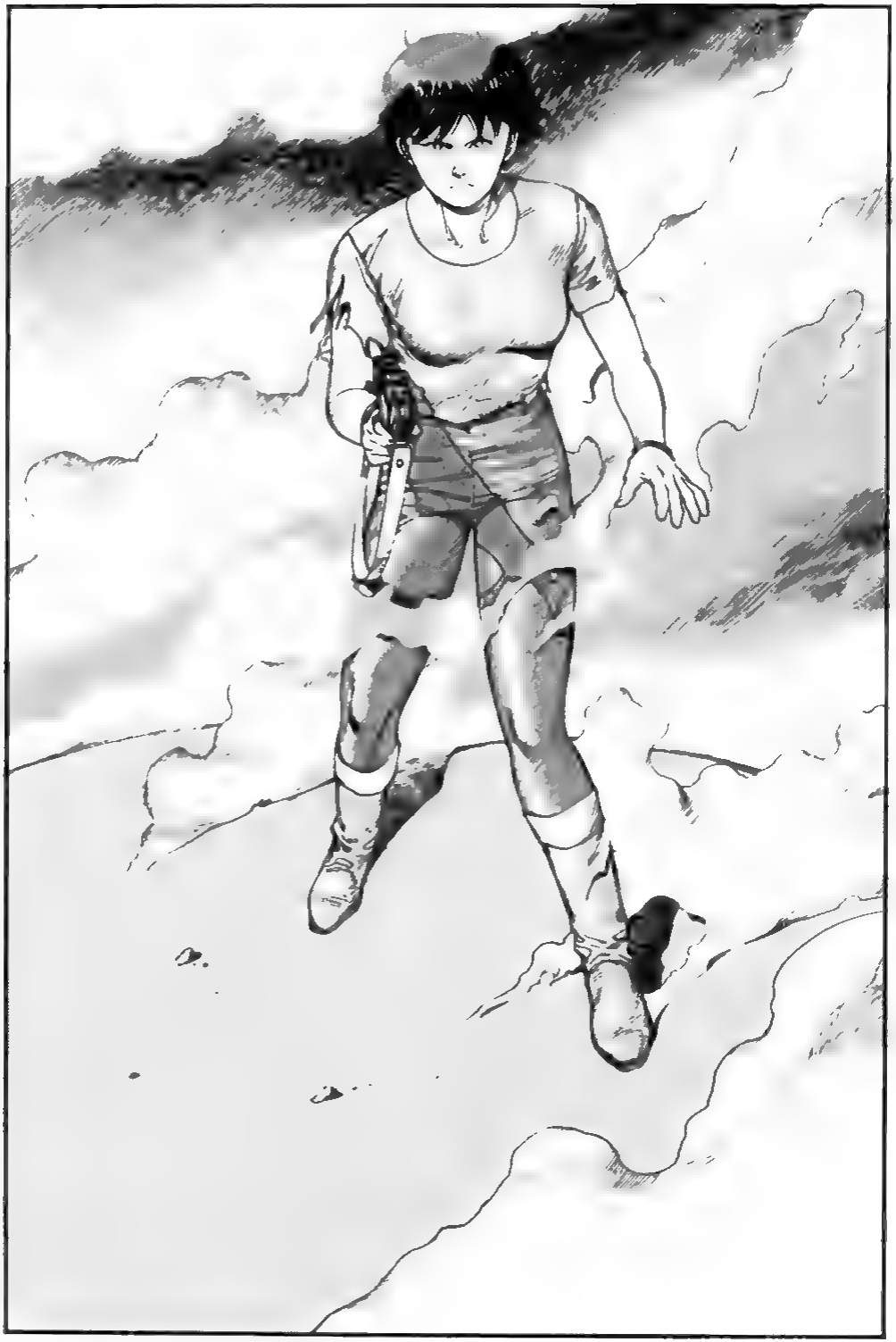
「秋の京都を見てきました」



Title page of Episode 065
Young Magazine (Jan. 6, '86)

「忘年会の季節なので、今年こそ飲みすぎないようにしたいですね」

Title page of Episode 066
Young Magazine Jan 20 '86

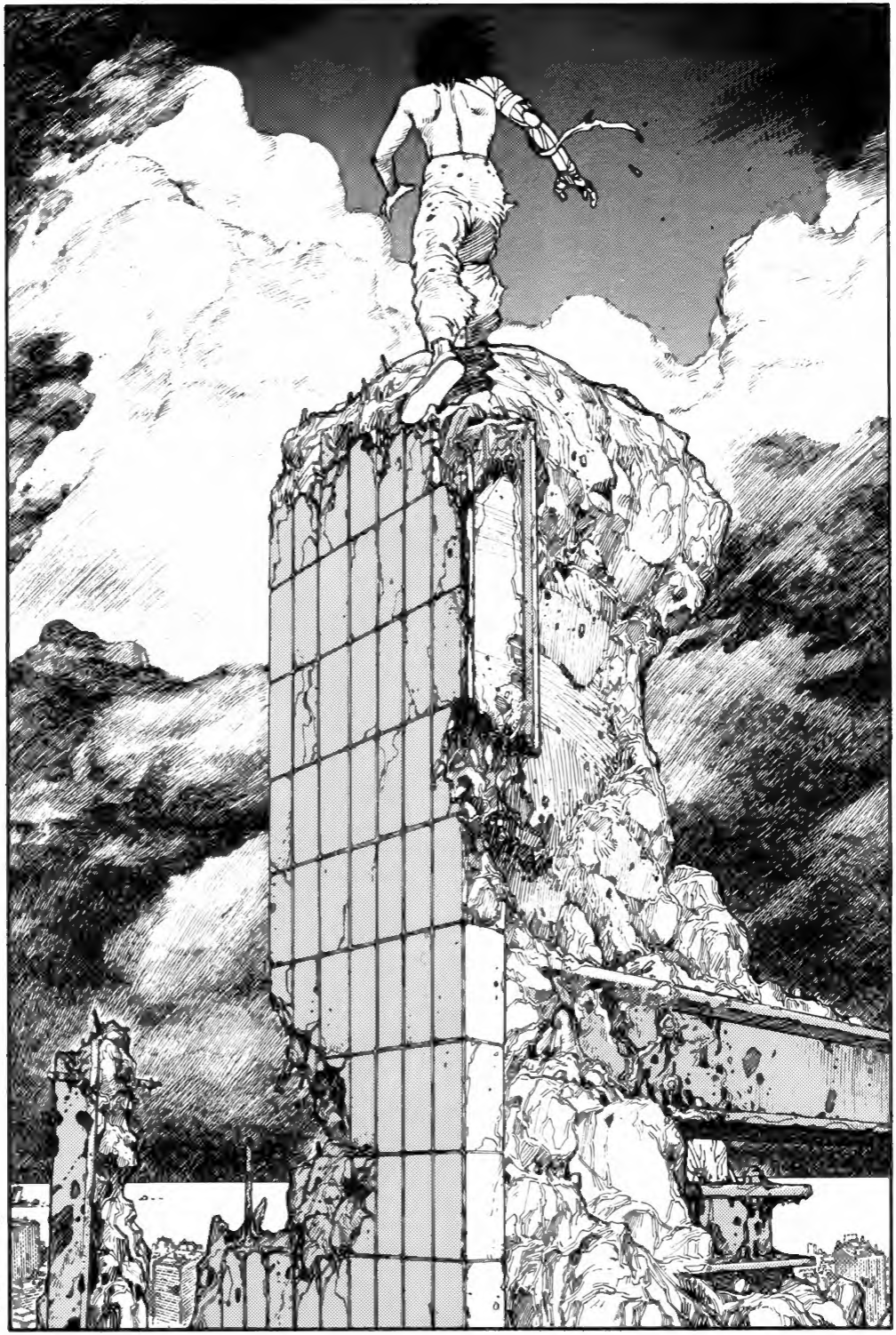


Title page of Episode 067
Young Magazine (Feb. 17 '86)

「正月買って、まだ見ていない
レーザーディスクがいっぱい
あります 見たい！」

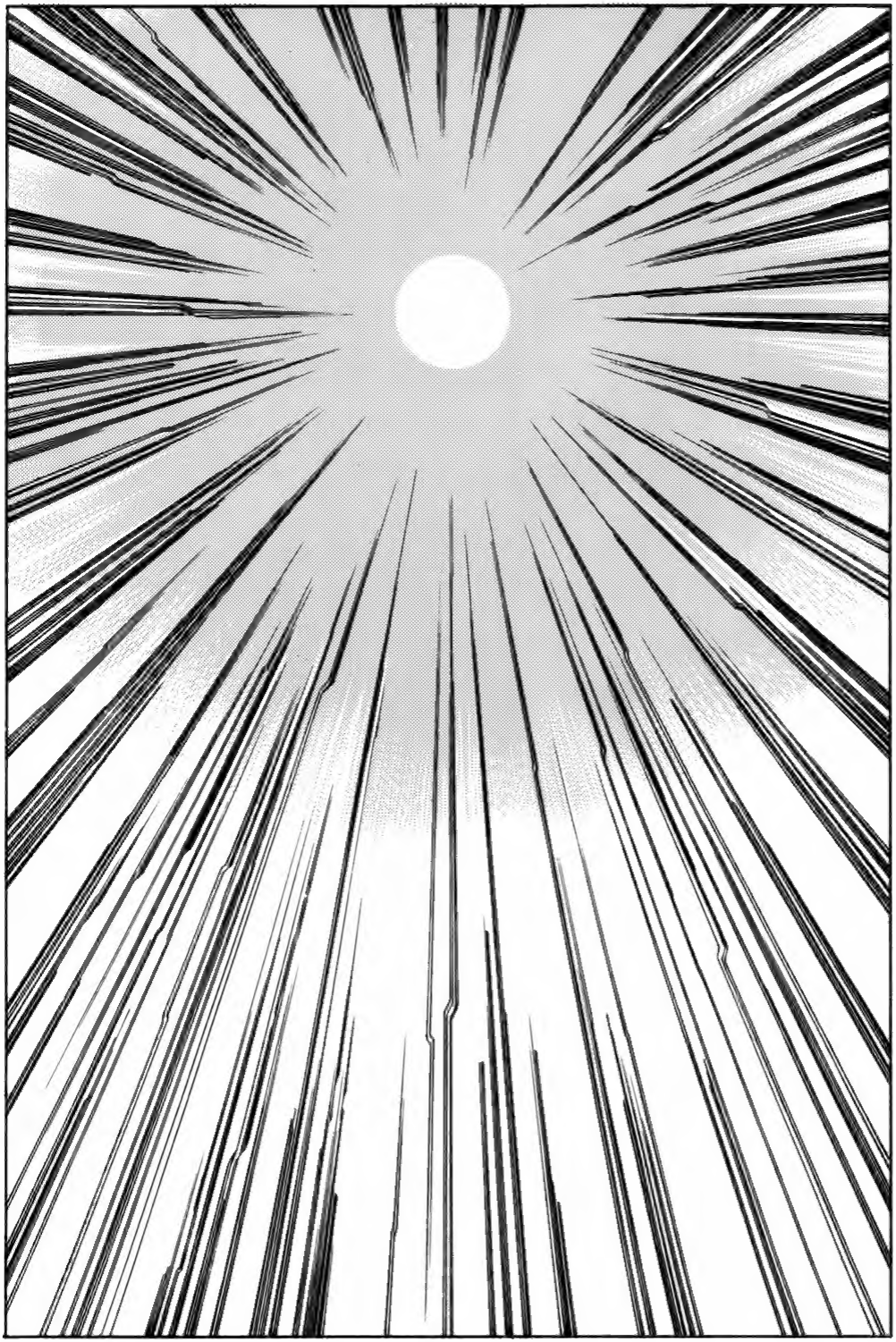
Title page of Episode 068
Young Magazine (Mar. 3, '86)

「去年からつくっていた短編アニメーションが、そろそろ完成の見こみです」



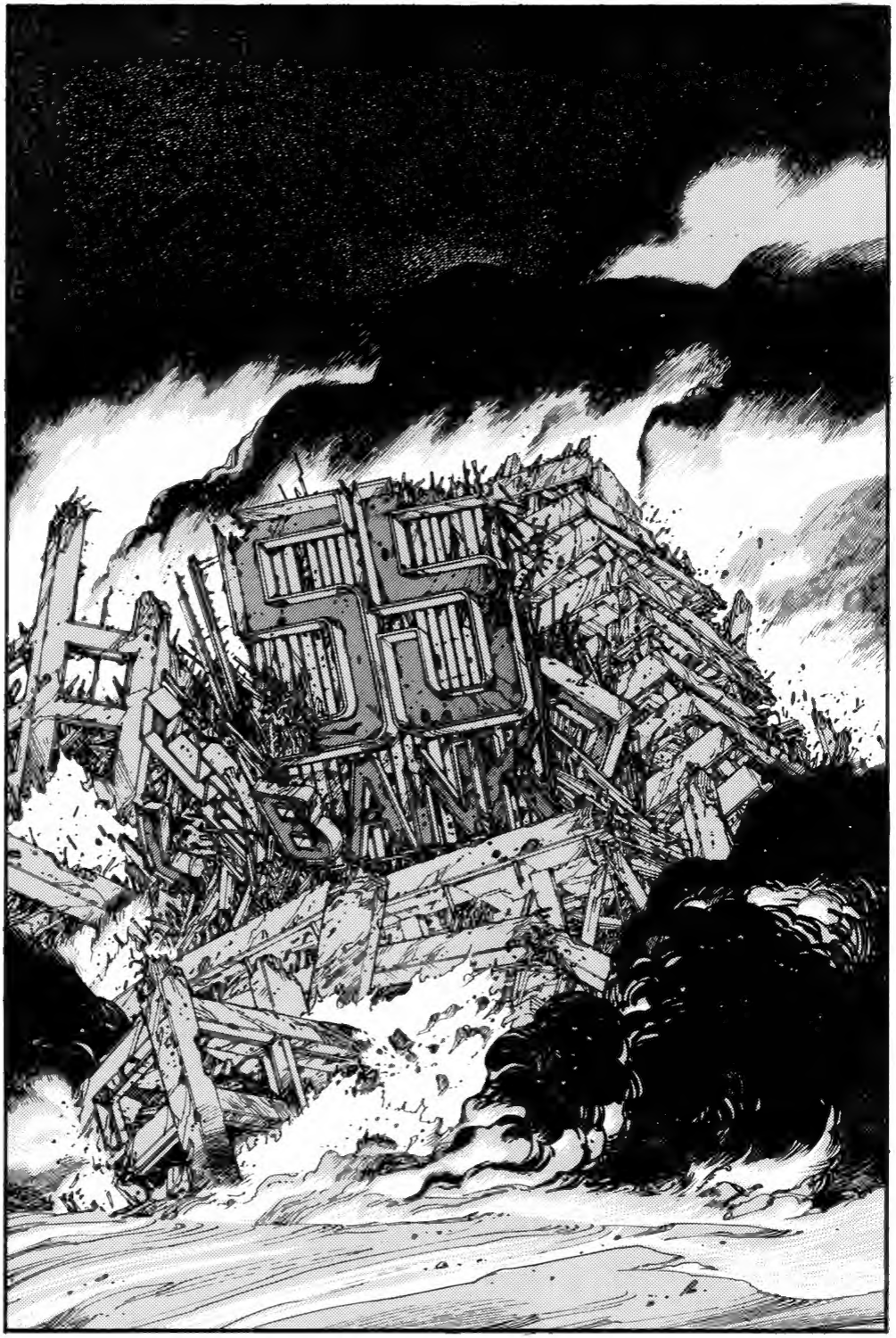
Title page of Episode 069
Young Magazine (Mar. 17, '86)

「近代美術館の「19世紀ドイツ絵画展」を見に行ってきました」



Title page of **Episode 070**
Young Magazine (Apr. 7, '06)

「3/31発売のＹＭ増刊に表紙イラストを描きました。Ｔシャツにもなります」



Title page of **Episode 071**
Young Magazine (Apr. 21, '86)

「夏以後に出すイラスト集の準備をしています。気長に待っていて下さい」